

Japan Auto Parts Industries Association

JAPIA NEWS

2017
7・8

隔月刊
(通巻720号)

一般社団法人 日本自動車部品工業会

特 集

「部工会 通常総会」 開催

中小企業優良事業表彰

会員企業紹介

荒井製作所(東京都中央区)

<http://www.japia.or.jp>

WHY?
NGK?
SPARK PLUGS



信頼で選ぶなら

6
倍

世界初の「ルテニウム配合中心電極」により、一般プラグに比べ約6倍の走行耐久性を実現(当社比)。更に「白金突き出し+オーバル形状外側電極」により着火性も向上。あらゆる性能においてNGK史上最強のスパークプラグです。



NGK SPARK PLUG
Premium RX



レーシングドライバー 佐藤琢磨

NGK | NTK
スパークプラグ ニューセラミック

日本特殊陶業



製品やイベントの
旬な情報をお届け中!

NGK スパークプラグ facebook

検索



AKEBONO

BRAKE EXPERTS

www.akebono-brake.com



製造請負優良適正事業者 認定制度 (GJ認定制度)

厚生労働省委託事業



ひと、暮らし、みらいのために

厚生労働省

Ministry of Health, Labour and Welfare



公式認定
マーク

良質な 製造請負事業者 の「証し」

認定制度は厚生労働省の請負ガイドライン^{*}に則した適正な請負体制の推進、
雇用管理の改善を実現するための管理体制・実施能力が認められた
請負事業者を「優良適正事業者」として認定する制度です。

※「製造業の請負事業の雇用管理の改善及び適正化の促進に取り組む請負事業主が講ずべき措置
に関するガイドライン」(平成19年度 厚生労働省)

平成29年度 製造請負優良適正事業者 一覧 (全54社/五十音順)

(株)アクティー	(株)エー・オー・シー	サンヴァーテックス(株)	(株)TTM	日総工産(株)	三島光産(株)
(株)アソウ・アルファ	(株)エス・エス産業	(株)サンキョウテクノスタッフ	(株)テクノクリエイティブ	(株)日本ケイテム	(株)ミヤザワ
(株)アバンセコーポレーション	(株)エフエージェイ	(株)三幸コーポレーション	(株)テクノスマイル	日本マニファクチャリングサービス(株)	UT エイム(株)
(株)イカイアウトソーシング	エヌエス・テック(株)	(株)シグマテック	テクノレイク(株)	(株)平山	由良アイテック(株)
(株)イカイインダストリー	(株)カインズサービス	(株)ジャパンクリエイト	ディービーティー(株)	(株)ヒューマンアイ	ランスタッド(株)
(株)イカイコントラクト	川相商事(株)	(株)新開トランスポートシステムズ	東洋ワーク(株)	ビューテック(株)	(株)ワイズ
(株)イカイプロダクト	(株)クリエイト	(株)セントラルサービス	(株)トーコー	フジアルテ(株)	(株)ワークスタッフ
(株)ウイルテック	(株)グロップジョイ	(株)総合ブランド	(株)トータルマネジメントビジネス	(株)フジワーク	ワークスタッフ(株)
(株)エイジェック	(株)KGテクノサービス	(株)塚腰サービス	日研トータルソーシング(株)	マルアイユニティー(株)	(株)ワールドインテック

お問い
合わせ先

製造請負事業改善推進協議会

協議会事務局(受託団体) 一般社団法人 日本生産技能労務協会
〒105-0004 東京都港区新橋4-5-1 アーバン新橋ビル9F

TEL.03-6809-1054 FAX.03-6721-5362

G J 認定制度

検索

<http://www.js-gino.org/mhlw/>

この認定制度は、厚生労働省の委託事業(「請負事業適正化・雇用管理改善推進事業」)
の一環として、「製造請負事業改善推進協議会」が運営を行っています。

KOITO



安全を光に託して

人とクルマの安全は、わたし達の願いです。

小糸製作所は自動車照明分野のリーディング・カンパニーとして
これからも人と環境にやさしい製品を提供してまいります。

株式会社小糸製作所

〒108-8711 東京都港区高輪四丁目8番3号

TEL: 03-3443-7111 (代表) <http://www.koito.co.jp>

イワタボルトの グローバルネットワーク

国内

- ・栃木工場・一関・山形・仙台・福島・宇都宮・栃木・上田・群馬
- ・太田・埼玉・つくば・千葉・五反田・SOFI 課・海外課
- ・多摩・横浜・湘南相模・富士・浜松・名古屋
- ・刈谷・三重・大阪・広島・福岡・久留米

海外

- ・タイ工場・シンガポール工場・オハイオ工場
- ・深圳工場・香港・上海・蘇州支店・武漢
- ・深圳貿易・深圳汽车零部件
- ・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア
- ・アメリカ (ロサンゼルス・アトランタ・
オハイオ・ナッシュビル)・メキシコ
(グアダラハラ・ケレタロ)・カナダ



認定または認証取得一覧

	タイトル	認定・認証施設	取得No.	認定・認証機関
日本	ISO/IEC 17025:2005	栃木試験所	RTL00210	JAB
	ISO/IEC 17025:2005	技術開発課 IBラボ	ASNITE 0050T	IA Japan
	ISO 9001:2008	栃木工場・技術開発課	YKA200001	LRQA
アメリカ	ISO 14001:2004	本社・五反田(営)・栃木工場	0772850	LRQA
	ISO/TS 16949:2009	IWATA BOLT USA, INC.	TS613385	BSI
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT USA, INC.	EMS549810	BSI
シンガポール	ISO 9001:2008	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	94-2-0318	PSB
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	2004-0265	PSB
タイ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	C2015-01314	PERRY JOHNSON
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	C2015-01313	PERRY JOHNSON
中国(深圳)	ISO/TS 16949:2009	岩田螺絲(深圳)有限公司	0079530	TÜV NORD
	ISO 9001:2008	岩田螺絲(深圳)有限公司	04100062166	TÜV NORD
	ISO 14001:2004	岩田螺絲(深圳)有限公司	04104062166	TÜV NORD

【IB】イワタボルト株式会社

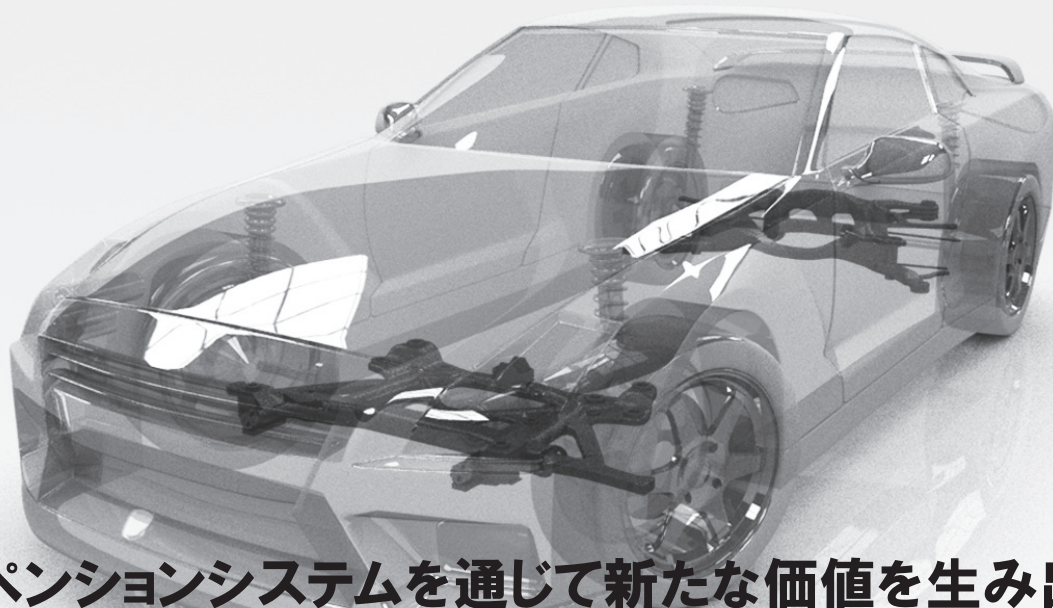
〒141-8508 東京都品川区西五反田2丁目32番4号

電話 03(3493)0211(代表)

<http://www.iwatabolt.co.jp/>

YOROZU

Passion for Innovation, Drive for Innovation



サスペンションシステムを通じて新たな価値を生み出し、
“ヨロズブランドを世界に”

株式会社ヨロズ 〒222-8560 神奈川県横浜市港北区樽町3-7-60 TEL:045-543-6800 <http://www.yorozu-corp.co.jp/>

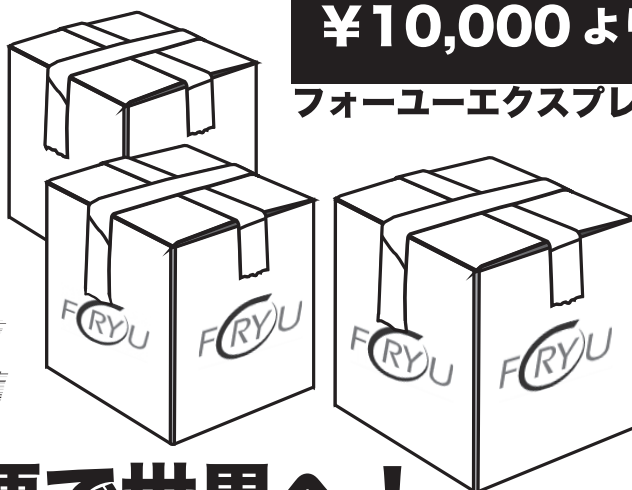
日本から中国へ、中国から日本へ、

航空貨物より速く、
クーリエよりも速く貨物を運びたい…

定期便ご利用なら、
¥10,000 より

フォーユーエクスプレス

最速



そしてチャーター便で世界へ！

日本→東南アジア、北中米、ヨーロッパ、中東 etc

中国→東南アジア、北中米、ヨーロッパ、中東 etc お任せ下さい。



安心、確実、丁寧な
ハンドキャリーで
皆様のご要望に答えます。

日中間だけでなく世界中 あらゆる地域への
ハンドキャリーにも対応します。

TEL : 03-5651-5685 Mail : info@foryouexpress.jp
FAX : 03-3661-8170 URL : <http://foryouexpress.jp/>

FRYU



フォーユーエクスプレス

検索

JAPIA NEWS

2017
7・8
隔月刊

一般社団法人 日本自動車部品工業会

(通巻720号)

目次

- 10 | 巻頭言
副会長・吉田夢佳志(大東プレス工業会長)
- 12 | **特集** 部工会 通常総会開催
- 17 | 中小企業優良事業表彰
- 22 | **会員企業紹介**
荒井製作所(東京都中央区)
- 24 | **連載** DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.16
日米欧の物価の状況と金融政策
日本政策投資銀行
- 26 | 北米事務所だよりVol.125
―「米国自動車市場の見通し」―
- 27 | 工業会業務レポート・スケジュール
- 33 | 日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト
- 37 | 指標・統計

・訂正 前号掲載の北米事務所だよりの「125」は「124」の誤りです。

平成29年7月15日発行
(隔月1回15日発行)

■発行所

一般社団法人
日本自動車部品工業会
〒108-0074
東京都港区高輪1-16-15
電話 03-3445-4212
FAX 03-3447-5372

■編集

日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門1-10-11
芝大門センタービル3階
電話 03-5777-2351(代表)

■価格(消費税・送料別)

1部1,000円

JAPIA会員企業様向け
最新のセミナーの案内や情報等は… www.lapj.co.jp まで

ISO教育コンサルティング
株式会社エルエーピー
LAP ISO
Lead Auditor Project Team

大好評! IATF16949規格 解説セミナー
IATF16949 内部監査員セミナー
AIAG、コアツール実践2日間セミナー



〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 TEL:03-5114-2930 Email: iso@lapj.co.jp

暑い中お見舞い 申し上げます

株式会社ヨロズ

代表取締役会長

志藤 昭彦

アルパイン株式会社

代表取締役社長

米谷 信彦

三輪精機株式会社

代表取締役社長

西海 栄一

トピー工業株式会社

代表取締役社長

高松 信彦

マルヤス工業株式会社

代表取締役会長

山田 隆雄

株式会社荒井製作所

代表取締役社長

山中 新一

株式会社小林製作所

代表取締役社長

坂巻 國男

東海マテリアル株式会社

代表取締役社長

菊地 一秀

株式会社ボンフォーム

代表取締役会長

西脇 保彦

朝日電装株式会社

代表取締役社長

手嶋 寛征

小島プレス工業株式会社

取締役社長

小島洋一郎

株式会社デンソー

取締役社長

有馬 浩二

富士部品工業株式会社

代表取締役社長

松崎 友康

株式会社浅野齒車工作所

取締役社長

倉長 勇太郎

KYB株式会社

代表取締役社長執行役員

中島 康輔

TPR株式会社

代表取締役社長兼COO

岸 雅伸

パシフィック工業株式会社

代表取締役社長

長安 莞爾

曙ブレーキ工業株式会社

代表取締役社長

信元 久隆

大野ゴム工業株式会社

代表取締役社長

大野 洋一

竹内工業株式会社

取締役社長

竹内 政雄

日本発条株式会社

代表取締役会長

玉村 和己
茅本 隆司

愛三工業株式会社

代表取締役社長

小林 信雄

株式会社エフテック

代表取締役社長

福田 祐一

ダイヤモンド電機株式会社

代表取締役社長CEO兼グループCEO

小野 有理

日本特殊陶業株式会社

代表取締役会長兼社長

尾堂 真一

豊田合成株式会社 代表取締役会長 荒島 正	株式会社小糸製作所 代表取締役会長 大嶽 昌宏	大東プレス工業株式会社 代表取締役会長 吉田 多佳志	大同メタル工業株式会社 代表取締役会長 兼最高経営責任者 判治 誠吾	プレス工業株式会社 代表取締役社長 角堂 博茂	株式会社リケン 代表取締役会長兼CEO 岡野 教忠
NTN株式会社 代表取締役社長 大久保 博司	NOK株式会社 代表取締役会長兼社長 鶴 正登	HKT株式会社 代表取締役社長 山崎 正男	エイケン工業株式会社 代表取締役社長 早馬 義光	イワタボルト株式会社 代表取締役社長 岩田 聖隆	株式会社今仙電機製作所 代表取締役会長 代表取締役社長 若山 恭二 足立 隆
太平洋工業株式会社 代表取締役社長 小川 信也	住友電装株式会社 代表取締役執行役員社長 川井 文義	株式会社杉浦製作所 代表取締役社長 杉浦 明博	しげる工業株式会社 代表取締役社長 正田 敦郎	株式会社ジェイテクト 取締役社長 安形 哲夫	三和パッキング工業株式会社 代表取締役社長 宮川 博至
日本精工株式会社 取締役代表執行役社長 内山 俊弘	日本精機株式会社 代表取締役社長 社長執行役員 佐藤 守人	日鍛バルブ株式会社 代表取締役社長 金原 利道	日新工業株式会社 代表取締役 松下 芳博	株式会社ニチリン 代表取締役社長執行役員 前田 龍一	トヨタ紡織株式会社 取締役社長 石井 克政
			株式会社ワイピーシステム 代表取締役 吉田 英夫	ユニプレス株式会社 代表取締役社長執行役員 吉澤 正信	矢崎総業株式会社 代表取締役社長 矢崎 信二

巻頭言

Introduction

『お客様は神様』



一般社団法人日本自動車部品工業会
副会長・吉田 孝佳志

[大東プレス工業株式会社 代表取締役会長]

前回の私の巻頭言、『誰かもどこかで』でご紹介致しました『世界で一番貧しい大統領のスピーチ』をお読み頂けた方もおられるかと存じますが、改めて当時を思い出しながら筆を執っております。前回、大統領の言葉を通して伝えなかったのは、「貧乏とは少ししか持っていない事ではなく、無限に欲が有り、いくら持っていたても満足しない」とのメッセージでした。

最近“働き方改革”が盛んに言われています。超長時間にわたる残業が生み出した不幸な出来事がきっかけとなり、この言葉が生まれました。事件や事故が起きる前、まだ何もない時点で早く気付くべきでしたが、不幸は事が起こってから気付くのが世の常です。

そもそも残業はどうして必要になってきたのでしょうか？ここに働き方改革と言う言葉の真意が隠されていると思います。残業は「限られた時間内では必要なものが間に合わないから、働く時間を延長して対応しよう」との安易な考えからの発想だったと、今は思っております。物が売れば売れるだけ作り、挙句の果ては24時間近く働き続けるのが世の常になってしまっているのが現状です。

戦中に育った私は、幼い頃から働くことは“善”、遊びは“悪”との環境下で育てられました。有給休暇は病気の時に取るものとの認識しかなく、ただただ働く事が生き甲斐でありました。お客様に必要な物を必要な時に必要な数だけお届けする事に、達成感を見出しておりました。「なぜご注文頂いた数量を超えてまで、通常の納期内にお届けしないといけないのか？」そう考える前に従業員を残業させ、納期対応を続けておりました。就業時間を延長してお客様のご要望にお応えする事が正しい事と、考え理解していたところに問題があったのでは...と、今は思い始めております。

お客様は神様との考え方は、あたかも神様が決められた様に、間違って理解していたと思います。その考え方が不幸な出来事に繋がってしまった以上、ここでもう一度原点に返らなければなりません。お客様は神様ではなかった...と言うことです。お客様のご要望に応えるために一生懸命努力していたものの、それで不幸が起きれば神様の思し召しとは真逆な事だと、もっと早くに気付くべきでした。お客様にも、暫く待つて頂ける様にお願いする様に、もっと努力をするべきでした。

一定時間内の生産量には限りがありま

す。能力以上の需要であれば残業で対応するのではなくて、お待ち頂くという習慣をしっかりと醸成していかななくてはなりません。そうしないと第二、第三の不幸な出来事が、また起こることになります。

“お待ち頂く”を基本に据えると、多少良い事もあります。一つは、遮二無二に増産せず、計画的な生産ができると言う事です。ムダ・ムラ・ムリをなくし、平準化した生産が可能になります。二つ目は、当初の見積り原価のまま生産できる事です。残業をすると割増賃金が発生しますが、これがなくなります。三つ目は、手に入るまで待つという習慣が醸成され、お客様も計画的に発注せざるを得なくなります。この考え方を育くむ事が、不幸な出来事の再発を防ぐ原点ではないでしょうか？

今後は、次世代の神様とお付き合いしていくためにも、我々サプライ・サイド側での改革を進めて行きましょう。

特集



部工会 通常総会開催

～平成29年度事業計画承認～

日本自動車部品工業会は、5月25日（木）、東京都内のホテルにおいて平成29年度通常総会を開催した。当日は、平成28年度事業報告・決算および平成29年度事業計画・予算について審議し、いずれも原案どおり承認された。

今年度の事業計画では、自動車産業取引適正ガイドラインや下請法等の周知活動を行うほか、中小会員企業への支援としてWEBを活用した技術展示商談会を運用する。また、中小企業等経営強化法の「事業分野別経営力向上推進機関」として中小企業向け支援活動を展開する。新事業分野への取組みとしては、「自動運転基準検討部会」を中心に関係省庁の活動に参画して、タイムリーな情報提供に取組む。海外事業展開への支援として、会員ニーズの高い地域や国の市場動向等に関する情報提供を拡充する。その他、環境問題への対応、知的財産権問題への対応等、9項目（事業計画参照）の重点事業を中心に

活動を強化していく方針である。

この他、今年は一部の理事・監事の方々の補充選任が行われたことから副会長の一部に交代があった。同日に行われた臨時理事会で国際委員長を務められた藤森文雄副会長（アイシン精機(株)相談役）が退任され、後任に大嶽昌宏理事（(株)小糸製作所取締役会長）が副会長・国際委員長に、総合技術委員長を務められた中村克己副会長（カルソニックカンセイ(株)会長）が退任し、後任に荒島正理事（豊田合成(株)取締役会長）が副会長・総合技術委員長にそれぞれ選任された。

また、当日は総会終了後に経済産業事務次官の菅原郁郎様にお越しいただき「日本経済のこれから」と題した講演会を開催し、会員や関係団体等多くの参加者があった。



総会会場で挨拶する志藤会長



講演される菅原経済産業事務次官

平成29年度事業計画

I. 自動車部品産業の現状と課題

【現状】

平成28年の自動車産業をみると、国内の自動車市場は、前年から続く軽自動車販売減少の影響もあって販売台数は前年比1.5%減の497万台強となった。海外市場では、北米や中国の自動車販売が好調に推移したものの為替の影響などから輸出台数は前年比1.2%増の463万台に留まった。その結果、国内四輪車生産実績は、前年比0.8%減の920万台となった。

一方、自動車部品産業では、海外事業の需要の増加があったものの、為替が円高に振れたことや軽自動車の販売減の影響から4～9月期では厳しい経営状況となった。平成28年12月に発表した部工会加盟の専業上場企業79社の平成28年度中間期の経営動向では、売上高は前年同期比5.6%の減収（IFRS適用10社は0.0%）、営業利益では4.3%減（同7.4%減）、経常利益では21.9%減（同税引前利益11.9%減）となった。また、平成28年度通期予測では、世界全体としては緩やかな景気拡大が続くとみているが、為替変動への警戒感から、前年度実績に対して、減収・減益を見込んでいる。

こうした中、平成29年度の政府の経済見通し〔平成29年1月20日閣議決定〕では、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響等の先行リスクはあるものの、経済対策の推進等により、国内の雇用・所得環境が引き続き改善し、経済の好循環が進展する中で、民需を中心とした景気回復が見込まれることから、国内総生産の実質成長率は1.5%程度（名目成長率2.5%）と見込んでいる。

主要国での政治・貿易政策の変化等グローバルでの事業環境の変化の中で、国内の自動車産業においても資本・業務提携等事業再編の動きが見られている。こうした中で自動車部品産業は、環境や安全への対応に加え、新興国を含む海外事業展開の体制作り、自動走行技術の開発・応用をはじめとする先進

的な自動車に対応できる製品作り等の課題に引き続き取り組んでいく必要がある。

【課題】

1. 日本の自動車産業のサプライチェーン全体の競争力を維持・強化するために「自動車産業適正取引ガイドライン（平成19年6月策定、平成29年1月最新改定）」、下請法・下請中小企業振興法等関係法規等に基づく取組みに加え、平成29年3月に策定した「自主行動計画」を着実に実践すること等により、自動車産業における適正取引の更なる推進が必要となっている。
2. 自動走行システムは、安全、環境、渋滞緩和等に大きく寄与することが期待され、経済産業省や内閣府等関係省庁が連携し、国を挙げて取組んでおり、政府の「未来投資会議」（議長・安倍晋三首相）でも具体的な実施計画が示された。この分野は、従来の走る、曲がる、停まるに関わる技術においても付加価値、変革が望まれる事業領域であり、さらにIoTの活用などのIT技術分野との連携も求められるため、そのような動きを見据え、参入しやすい環境作り等の事業戦略が必要である。
3. 世界規模で事業展開する上では、国内外で生ずるリスクやコンプライアンス問題等に的確に対応することや広範な課題解決のための各種情報提供が極めて重要である。また、自然災害等を念頭においた事業継続の対応や通商面での手続きの簡素化に資する取組みや新たな新興市場の情報収集も欠かすことができない。
4. 知的財産権問題への対応では、依然として自動車部品の模倣品がアジアばかりでなく先進国市場にも出回っている。事故の危険性や部品メーカーの信用問題にも関わる重要な問題であることから、関係団体等が連携して模倣品の製造・流通防止の努力を継続する。
5. 環境問題への取組みでは、地球温暖化防止のためのCOP21パリ協定の合意を受け、2030年に向

けて更なるCO2排出の削減が求められている。また、グローバルで環境・化学物質規制強化が進む中、欧米関係機関との密接な連携と一定の発言権の確保に努めなければならない。

6. 自動車部品の基準・規格の国際調和活動は、世界規模で生産・輸出を展開している部品メーカーにとって重要な課題となっている。国土交通省が推進している国際的な車両認証制度 (IWVTA) の確立に向け、引き続きアジア諸国等の部品業界に働きかけていくことが重要である。
7. 製品の設計開発や受発注、物流管理の電子化、電子商取引は既に相当の進展を見ているが、今後さらに自動車メーカーと部品メーカー間取引の利便性、効率向上を図っていくことが重要である。

Ⅱ. 基本方針と重点施策

自動車部品業界を巡る課題は極めて多岐に亘り、工業会としては、会員企業の事業活動に役立つよう幅広く適切な事業推進を図る必要がある。このため、次の基本方針により各種事業を実施する。

【基本方針】

1. 会員が直面する諸課題への対応のため、各委員会並びに各支部を中心に、会員企業のニーズに的確に応えた活動を行うとともに、必要に応じて関係団体、関係省庁等と連携、要望、提言を行う。
2. 自動車部品業界が抱えるグローバルな課題に対応するため、欧米を含めた関係団体や関係省庁との密接な連携をとり適切な対応を図る。
3. 自動車部品業界の更なる発展と工業会活動の充実のため、より多くの部品メーカーの参加が肝要であるとの認識に立ち、既存会員企業の参加率を高めるとともに新規会員の拡大に努める。

上記の基本方針の下に平成29年度においては、NAFTA等の国際的な情報提供の拡充や自動運転、IoT等の新しい技術課題への適切な対応を図るな

ど、次の点を重点施策として活動を行う。

【重点施策】

1. 自動車産業における取引環境の整備・改善

「自動車産業取引適正ガイドライン」(平成29年1月最新改訂)及び下請法、独禁法、下請中小企業振興法等関連法規について、関係省庁・団体と連携し、会員企業及びその取引先等サプライチェーンへの周知活動等を拡充する。また、「適正取引の推進と生産性・付加価値向上に向けた自主行動計画」について、フォローアップも含め、関係団体との連携を取りながら、サプライチェーン全体で具体的な取組みを進める。

2. 中小企業への支援

中小企業のビジネス機会の創出を図るため、WEBを活用した技術展示商談会を実施する。また、本年秋に開催される第45回東京モーターショーへの共同出展を行う。さらに、自動車部品産業の認知向上のために、主として学生、教員を対象とした広報活動を継続する。加えて、中小企業等経営強化法に基づく「事業分野別経営力向上推進機関」として、自動車部品関連中小企業の生産性向上に向けた制度説明会の開催や優良事例の展開に務める。

3. 新事業分野への対応

新たな事業分野である自動走行システムについては、平成28年度に立ち上げた「自動運転基準検討部会」を中心に、経済産業省、国土交通省、内閣府等の活動に積極的に参画するとともに、関係団体等とのネットワークの構築、会員へのタイムリーな情報提供に努める。

4. 海外事業の展開・安定化への支援

- (1) 会員企業の海外事業支援策として、新たに「NAFTA研究会」、「中国研究会」を立上げる等、ニーズの高い国・地域を対象に、政治・経済、市場動向、通商関係動向など、事業に影響の大きい問題をタイムリーに取り上げ、情報の共有と意見交換を行う。必要に応じて、関係官庁等への意見提言を行う。
- (2) 会員企業のEPA活用を支援するため、意識啓

発、制度情報提供、活用ツールの紹介などに継続して取り組むほか、国際物流改善については、昨年度実施した困りごとアンケート結果に基づき、必要に応じて関係各国政府への業界意見提言を行う等、通商面での手続きの円滑化、簡素化に取り組む。

- (3) 日米欧三極自動車部品会議、カナダ、メキシコ、ブラジル、インドを含めた自動車部品G7会合に参加し、グローバルでのネットワーク強化を図るとともに国際委員会事業活動にも反映する。また、今年、日本で開催されるAMEICC（日アセアン経済産業協力委員会）自動車WGに経済産業省及び自工会と連携して協力し、アセアンにおける日系部品メーカーのプレゼンスの向上に努める。

5. 知的財産権保護活動

- (1) 海外での模倣品対策活動を継続して実施する。模倣品被害の最新状況を調査し、部工会として訪問すべき国・公的機関の選定や発信情報の見直しを行い、必要に応じて現地へ調査団を派遣する等、一層の成果拡大を図る。
- (2) 会員企業の知財マネジメントのレベルアップのため、知財広報、知財戦略、知財人材育成などの取り組みを進める。また中小企業の知財人材育成支援策として、知財管理・人材育成のための研修講座を開設する。

6. 環境問題への対応

- (1) 第8次環境自主行動計画の目標達成のため会員企業への更なるサポートの強化に努める。
- (2) グローバルな化学物質規制に的確に対応するため、関係業界団体とも連携して、正確な情報をタイムリーにサプライチェーンへ展開する。また、日米欧の関連業界および中国やASEANとの密接な情報交換・渉外活動を実施するため、若手を含めた人材育成に注力していく。

7. 基準・認証制度への対応

ASEANの部品認証制度の統合に関しては、アジア官民フォーラムへの参画をはじめ、今後もしっかりとした情報収集を行い、日系部品メーカーの円滑な認証取得を支援する。また、中国強制認証制度(CCC認証)やインド認証制度(AIS037)等についても、関係当局への聞き込みなど継続的な情報収集により、認証取得関連業務の負担軽減に努める。

8. 電子情報化活動

IoTはじめ新産業構造に関わる基礎的かつ会員共通領域の課題検討に関し、経済産業省および自工会と連携しつつ、取組方針の探索を開始する。

9. 支部事業

(1) 関東支部

工業会事業計画に定められた方針に沿って本部活動との連携を図り、関東支部会員企業の相互交流と情報交換の機会を提供するために懇談会・懇親会、工場・施設見学会、講演会等を開催する。具体的には、企画部会が中心となって検討し、会員企業の事業活動に資する活動を積極的に展開する。

(2) 中部支部

今年度も会員企業のニーズへタイムリーに応える事業活動の展開を図り、中小企業会員を中心に次世代自動車へのビジネス拡大やものづくり力向上のための支援を継続して推進し、また地球温暖化対策のために、幅広い環境保全活動への積極的な支援事業を進めていく。

(3) 関西支部

工業会活動の更なる拡大と活性化を図るため、西日本地区での会員企業の拡大に努めるとともに、平成29年度は、「10年先の自社のあるべき姿を想定して、将来に備えた勉強に今すぐに取りかかろう」を活動の基調テーマとして掲げ、諸活動を着実に実行して行く。

役員紹介

		名 前	会社名／役職
会 長		志 藤 昭 彦	(株)ヨロズ 取締役会長
副会長	総務委員会委員長	岡 野 教 忠	(株)リケン 取締役会長
	関東支部長	角 堂 博 茂	プレス工業(株) 取締役社長
	中部支部長	判 治 誠 吾	大同メタル工業(株) 取締役会長
	関西支部長	吉 田 孝佳志	大東プレス工業(株) 取締役会長
	国際委員会委員長	大 嶽 昌 宏	(株)小糸製作所 取締役会長
	総合技術委員会委員長	荒 島 正	豊田合成(株) 取締役会長
		大 下 政 司	日本自動車部品工業会 専務理事



志藤会長



岡野副会長



角堂副会長



判治副会長



吉田副会長



大嶽副会長



荒島副会長



大下副会長

平成29年度 中小企業会員会社 優良従業員表彰

昭和57年より毎年、工業会の中小企業会員の優良従業員に対する表彰が行われています。平成29年度の表彰者が次の各氏に決定し、各支部それぞれの支部年次会において表彰されました。

表彰受賞者の皆さんに対し、心からお祝い申し上げますとともに、今後とも引き続きご活躍されますように期待致しております。

表彰受賞者は全員勤続15年以上、年齢は35歳以上の方々です。

なお、掲載内容（情報公開）につきましては、ご了解をいただいております。

関東支部

大村 幸一

おおむら こういち

江崎工業株式会社
栃木工場
品質管理グループ生産準備課 課長



【推薦理由】

入社以来、試作品の推抄管理や量産品の生産準備活動に携わり、同業務の仕組み改善に尽力し、当社の「命」である多種少量生産対応を支えてきた。又、タイ工場への必要物資の物流手配を一手に引き受け、国内では工場変革活動にも積極的に関与する等その活動領域は幅が広く、貴重な人財である。

関東支部

幸田 美沙子

こうだ みさこ

エス・オー・シー株式会社
生産技術



【推薦理由】

勤続22年、生産技術部門の機械加工チームのリーダーとして率先垂範して品質向上・作業能率向上に邁進している。特殊勤続の加工精度は他の追随を許さない技能を有し、改善提案は毎年有益な提案をするなど会社への貢献は非常に大きい。

関東支部

石原 慎二

いしはら しんじ

三輪精機株式会社
本社工場1課 課長代理



【推薦理由】

入社以来、製造業務に従事。機械加工を担当、優れた数値制御工作機械の加工技術を有し、長年にわたる経験と豊富な知識を生かし、積極的に作業能率の改善増進を図り成果を上げ、生産性・品質の向上に大きく貢献している。

関東支部

松川 朋和

まつかわ ともかず

東京ガスケツト工業株式会社
生産部 検査課 係長



【推薦理由】

入社以来17年の永きに亘り、検査部門において品質に関わる業務に携わって来ました。近年、工程内不良等の課題にも現場に入り込み改善活動に努め、企業への貢献は多大であり他の模範となること大であった。

関東支部

小宮 弘靖

こみや ひろやす

東洋エレメント工業株式会社
開発技術部 品質保証1課 チーフ



【推薦理由】

入社当時は技術員として新製品開発時の評価試験を、その後品質保証業務を担当し24年間、お客様へ安心して当社製品をご使用頂くため、品質検査や品質向上のためのシステム作りや改善活動に寄与した。

関東支部

黒澤 誠

くろさわ まこと

埼玉機器株式会社
生産管理部 課長



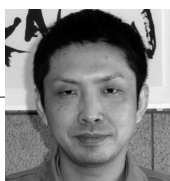
【推薦理由】

平成7年に入社し、平成25年から生産管理部に所属し、豊富な知識とアイデアを持って、秩父製作所の月末未納0件、22ヵ月継続に貢献している。又、技術、知識の取得に努めるとともに、後進の指導も積極的に行い、会社発展に寄与している。

関東支部

小林 幸男

こばやし ゆきお

京浜精密工業株式会社
技術部生産技術課

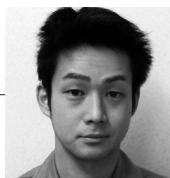
【推薦理由】

入社以来、技術部に所属し刃具の寿命延長、品質精度向上、原単位低減等に取り組んでいる。今年に入り製品溝部の切粉残り改善に取組み刃先の改善を実施し切粉残りを防止する成果を出した。これにより同製品の品質向上に大きく貢献した。又同刃具の寿命延長にも取組み月額22万円の刃具費低減を実現した。業務に取組む姿勢は常に前向きで、自分の持つ技術、知識を部下に伝承するとともに教育にも熱心に当たっている。以上の事から優良社員として推薦いたします。

関東支部

本村 政明

もとむら まさあき

京浜精密工業株式会社
北海道工場 品質技術課

【推薦理由】

入社以来、検査業務において製品品質の向上に努める。今年に入り、慢性的に発生していた製品溝部への加工切粉噛み込み不良の撲滅改善に取り組む、切粉の形状やサイズなど発生要因を詳細に分析し、対策することで噛み込み“ゼロ”を達成した。同製品の品質向上に大きく貢献すると共に、自業務の枠を超え刃具の刃先の研究に取り組む姿勢は、若手社員にとっても良き模範となっている。以上のことから優良社員として推薦いたします。

関東支部

高橋 浩之

たかはし ひろゆき

中川特殊鋼株式会社
倉庫事業部 北関東鉄鋼流通センター
マネージャー

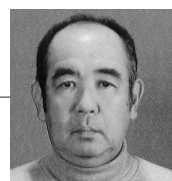
【推薦理由】

弊社は特殊鋼商社であります。お客様ニーズにより国内・海外に切断工場を有しております。推薦者は入社より北関東鉄鋼流通センターの切断工場に勤務し、現在はマネージャーとして製造、品質、納期、ISO管理と幅広く弊社の切断業務に寄与されております。また、中国切断工場の立ち上げ、メキシコ工場立ち上げ準備への参画、更にはマザー工場管理者としてタイ・札幌の工場からOJT教育者の受け入れにも力を発揮されております。

関東支部

金子 裕之

かねこ ひろゆき

三和ニードルベアリング株式会社
製造部 課長

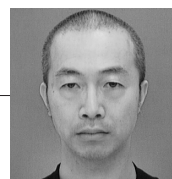
【推薦理由】

昭和57年入社、研削一筋、新規品の立上など難度の高い仕事を進めてきました。現在は、製造部の課長として、部下の信頼も厚く、「生産性向上」と「不良ゼロ」を目標として、業務を推進し、成果を上げております。客先からも直近の5年間で2回の「品質表彰」を頂きました。

関東支部

中山 雅利

なかやま まさとし

矢島工業株式会社
技術部・試作課 主任

【推薦理由】

当社の研究開発部門員として、スバル車の耐久レース車の製作に深くかわかり、世界に通じる品質に大きく貢献している。勤務状態もまじめで良好である。

関東支部

馬場 誠

ばば まこと

ナジコ・スパイサー株式会社
品質保証部 課長

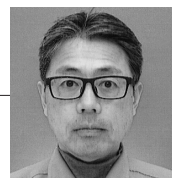
【推薦理由】

建機機械・商用車向け動力伝達装置の製品設計・生産技術・品質管理に長年従事し、製品力向上／品質向上／コスト低減により、製品価値向上に大きく寄与した。また後輩技術者の育成や輸入製品における品質改善を推進、日本の物づくり／品質要求の厳格さを国内のみならず、グローバルに展開している。

関東支部

相崎 英治

あいざき えいじ

宮本警報器株式会社
十日町工場 管理G 主任

【推薦理由】

管理グループにて生産管理業務に長年従事し、業務の効率化改善、後輩の指導育成に積極的に且、地道に取り組む着実に成果を上げております。また、長年、防火管理者として火災予防活動にも献身的に取り組む、防災への貢献も高く評価しております。

関東支部

曾根 雅子

そね まさこ

株式会社松井製作所
総務課



【推薦理由】

入社以来29年を経過
検査課購買課を歴任し出産のため休業を経て復帰、その後生産課にて物流、生産計画進捗業務を実践する。
現在は総務課主任として250名以上の従業員の出退勤基礎情報を管理し、また社会保険関係等の手続きの窓口として指導、申請を円滑に行うよう尽力している。

関東支部

小田嶋 憲幸

おだじま のりゆき

山口電機工業株式会社
開発部開発一課 主任



【推薦理由】

入社後製造課を約8年間経験し、平成19年から開発業務に携わっている。開発課では一貫して主力製品の開発設計、量産化までを責任を持って行い、他のメンバーの指導も行うなど中心的存在である。
今後も新製品の開発業務に期待できる人材として推薦します。

中部支部

横山 徹

よこやま とおる

株式会社東海スプリング製作所
鶴沼生産技術課 生産技術・TIE係



【推薦理由】

横山徹君はTIEという改善部門にて製造現場の縁の下の力としてたくさんの改善をして頂き、製造現場に多大な貢献をして頂いています。
今後も製造現場の皆が喜ぶ改善を進め会社に多大な貢献をしてくれると確信しており、若手の人材育成を含め大きな役割を担う人物として推薦致します。

中部支部

松下 政美

まつした まさみ

三井屋工業株式会社
製造部技術グループ・担当員



【推薦理由】

入社後、生産業務を経て現在は工程改善業務に従事。
工程改善では現場経験を活かし、現場目線で自ら改善案を考え、道具を作成し、工程に入り込み課題の潰し込みを行っている姿は後輩社員のお手本となる人材である。

中部支部

二井 孝治

にい こうじ

光精工株式会社
員弁工場 レース研削班



【推薦理由】

入社以来、レース研磨一筋に従事し、研磨作業においてよく熟達している。持ち前の明朗さと実行力で班を活性化させ、班長をよく補佐している。
性格は明るく、責任感が強く頼りがいがある。

中部支部

木村 学

きむら まなぶ

光精工株式会社
員弁工場 発送・物流班 班長



【推薦理由】

員弁工場において、長年、発送業務に従事し、製品管理に精通していた。その手腕を買われて、現在、生産管理系の発送・物流班の班長に就任し活躍している。
性格は、責任感が強く、温厚で人望も厚い。

中部支部

熊谷 敏秋

くまがい としあき

三井屋工業株式会社
品質保証部品質保証グループ・担当員



【推薦理由】

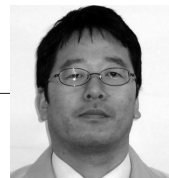
入社後、生産業務を経て現在は品質保証業務に従事。
現場経験を活かし、現場目線で工程の弱点を洗い出し、品質不具合が発生する前に未然防止するなど課題の潰し込みを行っている。
担当員として自らが率先して行動し、後輩社員の指導、育成にも取り組んでいる。

中部支部

長谷川 淳一

はせがわ じゅんいち

株式会社メイドー
業務部経理課 課長



【推薦理由】

入社以来、その専門能力を活かし、経理・財務業務に携わる。
本人の類まれなる努力と研鑽の結果、会社の中核となる財務等の業務に精通し、海外を含むグループ会社の経理・財務をまとめ上げ、会社及びグループの発展に寄与した。

中部支部

橋 慶司

たちばな けいじ

大橋鉄工株式会社
製造本部 製造部 担当員

【推薦理由】

入社後、技術部に配属され15年間に亘って、設備づくり、工程づくりに従事し、弊社のいいものづくりを支えてきました。

製造部に移籍後は、技術部で培った設備づくりの知識と経験を活かし、安全推進責任者として、安全で安心な現場づくりのリーダーとして活躍してきました。近年は、安全のみならず、品質管理、原価管理といった製造管理の全般に亘って製造部長を補佐し、また、若手管理者たちの模範として後輩の育成に尽力しています。

以上よりたの社員の模範となる優秀な社員であるため、推薦致します。

中部支部

太田 浩行

おおた ひろゆき

シミズ工業株式会社
システックスジャパン 班長

【推薦理由】

“78年”入社 造型工場にて22年間 型一筋で型づくりから型仕上げの経験を積み2001年にシステックスジャパン（以下SJ）に転出。

SJでは、製造の経験も積み、型から製造とモノづくりにおいて、幅広い経験と知識を持っている人材です。様々な問題においても、的確に真因追求から対策改善を任せられる人材であります。今までの経験を活かし、SJとシミズ工業との重要なパイプ役となり、情報の共有、迅速な型修理、確実な定期保全など仕事のやり方・進め方はSJ社員の模範となっています。

また、SJにおいて、所属は関係なくみんなから信頼され、良き相談役として皆から慕われている人材です。

中部支部

岩谷 敏彦

いわたに としひこ

シミズ工業株式会社
物流管理2課

【推薦理由】

入社以来生産管理部一筋で多岐に渡り出荷業務を遂行しています。

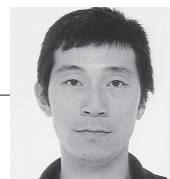
その間の勤務態度は中勤・夜勤の不規則な勤務形態時間でも会社の為に非常に勤勉で、また管理者不在の勤務時間においては顧客・他部署と連携をとりながら責任ある行動に努めています。

シミズ最終工程として細部での異常も見逃さず、品質不良の流出防止 また、長年の知識・経験を生かし出荷業務のノウハウを後輩にも伝承する姿は他社員の模範となっています。

中部支部

大川 俊雄

おおかわ としお

竹内工業株式会社
製造部 港工場グループ GM（課長）

【推薦理由】

上記の者は、当社ジャッキ生産工程における塗装工程を集約する港工場の長として、同工場の“4M”の改善・効率化などについて数々の成果を長年にわたって挙げ続けています。

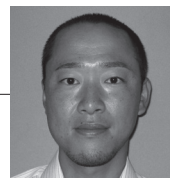
これはその実績・成果のみならず、業務への取り組み姿勢や具体的な行動・活動の事例としても他工程、他部署の模範となっており、社業振興への寄与においては目覚ましいものがあります。

上記事由により、表彰への要件を十分満たすとして推薦するものです。

中部支部

鶴田 健二

つるた けんじ

やまと興業株式会社
商品部センサー課 課長

【推薦理由】

入社後、品質管理課、生産技術課を経て現在のセンサー課の業務に従事している。センサー事業のマネジメント及び拡販に尽力し、新規取引先4社、新機能製品15種を立上げ売上高を3.4倍とした。

特に新分野への製品開発では、客先と密な関係を築き要求性能を十分に満足させた製品を立上げることで、流出不良0件を達成している。

中部支部

浅野 勝彦

あさの かつひこ

福寿工業株式会社
パワートレイングループリーダー代理

【推薦理由】

生産技術部門での工程設計、工法開発などの実績は、その後営業部門での積極的なデザイン・インによる拡販にて当社の業績に大きく寄与した。

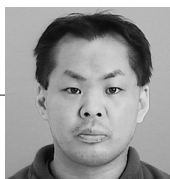
更に当社初の海外進出時には、拠点長として立上げから安定生産に至る工場づくりを成功させ、その実績は全従業員の模範となるものである。

関西支部

藤原 孝志

ふじわら たかし

株式会社神菱
生産部 鋳造保全チーム 班長



【推薦理由】

長年に亘り、製造部門に携わり、生産設備の保全担当として、安全及び品質意識も高く、生産活動に尽力した事を評価し推薦致します。

関西支部

炭谷 肇

すみたに はじめ

シグマ株式会社
メタル事業部 製造技術係 課長代理



【推薦理由】

会社の主力加工技術である切削加工に携わり高い技術力によって生産現場の改善を行い生産性の向上に寄与しました。

特に、工場の機械を安全に動かすため設備保全に尽力し成果を上げています。また、社内インストラクターとして若手社員の育成にも貢献しています。

関西支部

小畑 功

おばた いさお

日本フレックス工業株式会社
生産部 生産統括課 係長



【推薦理由】

昭和62年に入社以後営業を経て、平成5年より生産管理部門にて、協力工場・製造部門への生産指示、出荷管理に取り組んでくれています。

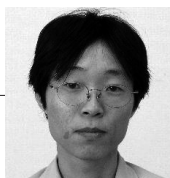
常にお客様第一を考え、納入体制の堅持に手腕を発揮して、お客様の信頼を得てくれました。

関西支部

宗方 真一

むねかた しんいち

日立オートモティブシステムズ阪神株式会社
品質保証部 品質管理課 主任



【推薦理由】

平成元年に入社し28年間、点火コイルの設計業務から品質保証業務と、一貫して同じ製品に携わってきました。この長年の経験、蓄積された豊富な知識を活かして品質の向上、不良未然防止に大きく貢献されました。

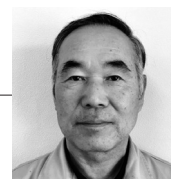
誠実で社内の人望も厚く社員の模範となっています。

関西支部

奥野 保廣

おくの やすひろ

一井工業株式会社
溶接組立課



【推薦理由】

長年に亘り、品質管理部門及び技術部門に所属し、溶接組立Assyラインへのロボット導入による自動化を推進する中、自作の部品検知センサーを治具に組み込むことで、部品欠品検知の自動化を進めた。

又、治具内に近接センサーを組み込み、部品セット忘れの場合は起動させない等の展開を図り、ラインに合ったやり方を現在まで引き継いできた。

各ラインの検査要員の抑制と生産性の向上、不具合流出防止を機械的に可能にしたことは、大きな成果である。

関西支部

片山 秀文

かたやま ひでふみ

新興工業株式会社
品質管理部 品質管理課課長



【推薦理由】

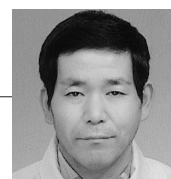
製造現場の管理者としての経験を生かし、常に品質管理、品質保証のあるべき姿を製造現場社員、若手社員へ伝承しており、品質改善を通じて弊社の信用、信頼に貢献をしている。会社内外を問わず人望も厚い模範社員であることから上記社員を推薦させていただきます。

関西支部

角田 良明

すみだ よしあき

三乗工業株式会社
生産部 本社工場
製造一課 成形班 副班長



【推薦理由】

入社以来、生産現場で多くの作業や設備の取り扱いに熟知し、生産活動を支えてくれました。優しく思いやりがある上に、粘り強い性格で、後輩の指導や面倒をよく見てもらえ、多くの社員から、慕われ、尊敬されております。

近年は、グループの作業管理を担い、上司の有能な片腕となってグループ全体のけん引役として、さらに実力を発揮していることから、ここに当社の優良従業員として推薦致します。

脈々と引き継がれる 創業者の精神

将来を担う人材確保に注力

山中新一社長



会社プロフィール



荒井製作所本社

本社・本社工場 〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-27-6 昭和ビル7 階
TEL.03-5833-7260 FAX.03-5833-7265

資本金 1億円

従業員 136人（2017年3月末現在）／連結約4300人

生産拠点 岩手アライ／岩手県下閉伊郡岩泉町小本字長内26、新潟アライ／新潟県十日町市明石町5
アライアメリカ、PTアライラバーシールインドネシア、タイアライ、ハイテクアライ／インド、武漢荒井密封件製造／中国、東莞荒井橡膠製品／中国、ベトナムアライ

代表者 代表取締役社長 山中新一

シールの吸引作用を発見

革のシール製造から始まった荒井製作所。創業者の荒井芳男氏はトレンチコートの革ボタンを発明するなどアイデアマンで、1952年にはオイルシールの「吸引作用」を発見した。オイル漏れを防ぐシールは布から革、合成ゴムへと変遷する。同社の高性能なオイルシールは二輪車の回転・摺動・揺動の至る部分に使われ、特にエンジンの中間軸シールは、二輪車の馬力アップに貢献。同社製のオイルシールを採用したヤマハやホンダは国内外のレースで勝利を収め、荒井製作所の名を世界に知らしめた。燃焼室内へのエンジンオイルの流入を防ぐバルブステムシール（VSS）も主力製品だ。独自技術でリップの先端に4フッ化エチレン樹脂（PTFE）を焼き付けたタイプは、摺動抵抗が少なく、馬力に貢献。ゴムリップタイプとともに高品質の製品で顧客の要求に応えると共に環境汚染防止にも貢献している。

早くから海外進出

総売上高に占める四輪車と二輪車を合わせた部品の比率は約70%。二輪車用のオイルシールはヤマハとホンダ、スズキ、川崎重工業の主要メーカーに供給し、世界でも大きなシェアを握る。日系二輪車メーカーと歩調を合わせるように、早くから海外シフトを進めてきた。1986年にインドのハイテク社に技術供与したのが始まりで、現在はインドとインドネシア、タイ、ベトナム、米国、中国の6カ国で、完成品工場としては7拠点を展開している。総売上高約400億円のうち300億円が海外だ。国内関係会社では生産体制を拡充する。岩手アライ（岩手県岩泉町）ではトヨタ自動車の「TNGA」に対応した新工場が12月に稼働。新工法・新工程で低コスト高性能オイルシールを生産する。新潟アライ（新潟県十日町市）ではチェーンの着座音を消すゴム付スプロケットの生産が行われている。

受注の拡大が見込まれ、2018年前半からの



オイルシール



VSS



新潟アライ



岩手アライ

新規受注に備え新工場の準備が進められている。

ゴム付スプロケットは耐久性を維持しながら、消音効果が得られる為、今後も需要が拡大して行く見通しである。

電動車両化への対応

オイルシールについても摺動抵抗が少なく、耐久性が高い新製品の開発に余念がない。近年は環境問題への対応から、オイルリークの無い高性能なオイルシールの採用を検討する動きが広がっており、ビジネスチャンスととらえる。ただ、今後の電気自動車（EV）の普及は多少なりとも事業に影響を与えそうだ。すべての車がEV車となれば、ショックアブソーバーシールや補器部を除き、オイルシールの使用箇所が減ってしまう心配は有るが山中新一社長は「全体の2～3割程度はEVに置き換わる可能性はあるものの全廃はあり得ない」と予測している。ハイブリッド化でエンジンそのものは小型化、低排気量となれば摺動抵抗の小さいPTFE付リップタイプのVSSやオイルシールなど、高付加価値製品の伸びが期待され、技術力の高いメーカーとし

て、存在価値を高める考えだ。

日本の技術発展のために

現在、二輪車のほぼすべてで「Ars」のロゴマークを見ることができる。アライ・ラバー・シールの頭文字を取ったもので、あの有名な福田繁雄氏のデザインにより「Ars」が生まれ、今では世界的に認知されたトレードマークにまで成長している。荒井芳男氏が世に送り出したラバーシールは、外周のシール性を高めたその技術は今では一般的な形状までになった。アイデア豊富で人間味にあふれた創業者の精神は社是に掲げられ脈々と引き継がれている。

特に研究開発には熱心で「つくば技術研究所」（茨城県つくばみらい市）には若き技術者達が大勢在籍する。将来を担うグローバルな人材確保の為にも本社を東京に移しリクルート効果も狙っている模様。2016年12月に「荒井芳男記念財団」を設立し創業者の偉業をたたえ後世に名を残すと共に、科学者や技術者の支援を通じて今後の日本の技術の発展に貢献、いずれは公益財団法人への移行を目指している。

日米欧の物価の状況と金融政策 周回遅れとなりつつある日本

欧米のインフレ率が上昇傾向にある。図は日米欧のインフレ率（物価上昇率）の推移をみたものであるが、米国では2015年頃から上昇傾向がみられ始め、足元では2%台に達している。欧州（ユーロ圏および英国）も同様である。2015年時点ではインフレ率は0%またはマイナス圏内にあったが、2016年半ば頃から上昇傾向が明確となり、足元では英国のインフレ率は2%を超え、ユーロ圏も2%に達しつつある。

インフレ率上昇の主な要因は、米国・欧州ともに原油価格持ち直しによりエネルギー関連価格が上昇しているためである。加えて英国では、2016年6月の国民投票でEU（欧州連合）からの離脱が選択された後に生じたポンド安により、輸入品の価格上昇が進行したことも大きな要因として挙げられる。

足元のインフレ率が2%に達した（達しつつある）という状況は、各国の金融政策上、大きな意味を持つ。なぜなら、米国・欧州ともに「インフレ率2%」が中央銀行による金融政策運営上の目標・目安として掲げられているためである。厳密には、この「目標」の位置付けは中央銀行ごとに濃淡があるため、2%の重みを各国同一に論じることはいえないが、程度の差はあるとはいえ物価が一つの基準点に達したということはいえる。

こうしたインフレ率の上昇傾向と歩調を合わせるように、欧米では金融政策運営についての議論、具体的にはこれまでの金融緩和政策を縮小・転換させるという、いわゆる「出口」についての議論が盛り上がりつつある。

米国では、FRB（連邦準備制度理事会）が昨年12月に1年ぶりの利上げを実施し、2017年も計3回の利上げを実施すると見込まれている。また、市場に資金を供給する金融緩和策の一環として過去にFRBが購入した債券について、これまでは償還期日が到来すると別の債券を再購入し、市場に出回る資金量を維持するという政策を採ってきたが、今後この再購入を縮小し資金供給量を減少させるという議論が本格化しつつある。

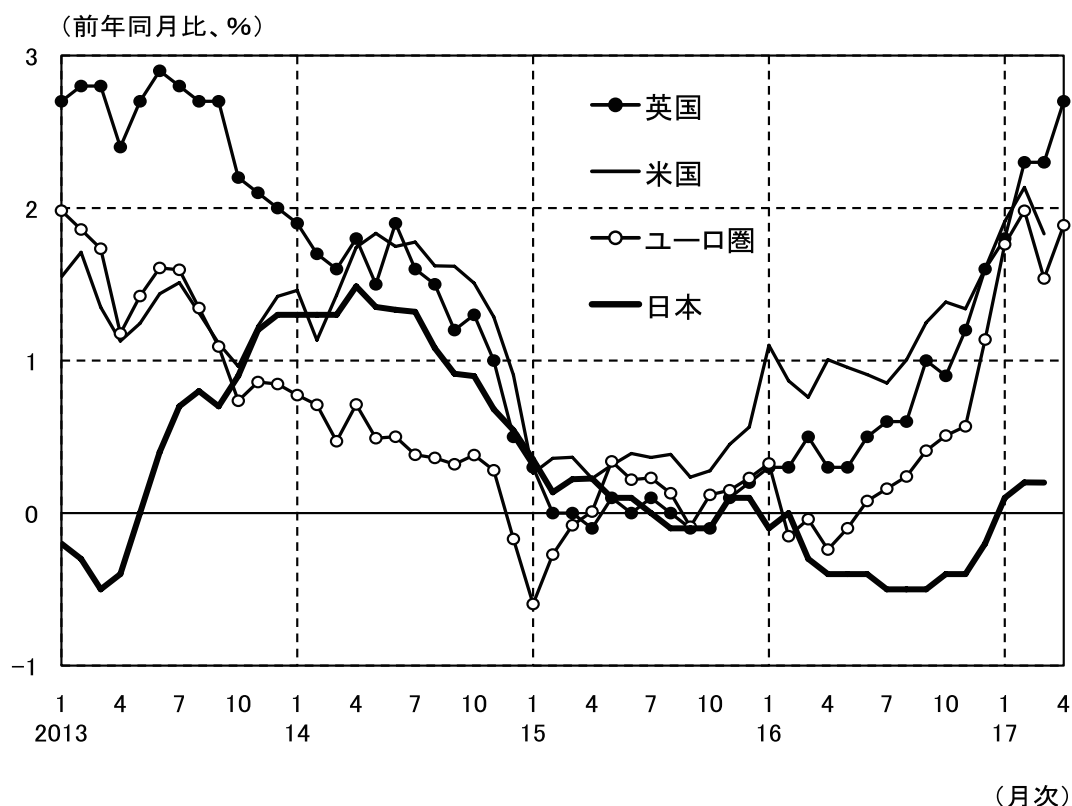
またユーロ圏でもECB（欧州中央銀行）が行っている量的緩和の規模を縮小すべきとの主張が繰り返されているほか、英国でも2%を超えたインフレを抑制するための利上げの可否が論点となっている。

こうしたなか、日本の物価上昇は欧米と比べると遅れがみられる。

図より日本のインフレ率の推移を見ると、2016年以降も低インフレ状態はなかなか解消せず、むしろデフレ（マイナスのインフレ率）が進行した。2017年になってようやくインフレ率はプラスに転じているが、2%前後の水準にある欧米のインフレ率とは大きく水をあけられている。日本でも「インフレ率2%」が金融政策運営上の目標とされているが、その達成にはなお時間がかかる見通しである。

この結果、金融政策を巡る議論についても、欧米のように出口を論じるような段階にはまだ至っていない。足元では日本銀行（日銀）による長期国債の買入額の減少がみられるが、一方で日銀は2016年9月に政策手段を資金供給量か

図 日米欧のインフレ率（物価上昇率）の推移



（備考）1. 総務省、米商務省、Eurostat
2. 日本：消費者物価指数の生鮮食品を除く総合指数
米国：PCE（Personal Consumption Expenditures）価格指数
ユーロ圏：消費者物価指数（HICP：Harmonized Index of Consumer Prices）
英国：消費者物価指数

ら金利へとシフトさせており、長期金利を0%程度で推移させるという方針に変化はみられていない。

このように、日米欧で比較するとインフレ率の上昇ペースは日本が周回遅れといった状況であり、その結果、金融政策の議論の進捗にも相違がみられている。

こうした動きは為替面では円安の方向に作用すると考えられる。特に対ドルに関しては、FRBが着々と利上げを進めている一方、円金利は上記の通りしばらくは抑制的な推移を辿る見通しであることから、金利格差の拡大を通じてドル高円安をもたらすと考えられる。

一方でインフレ率格差の観点では円高が予想される。これは、インフレ率が高い通貨ほど購買力（例えば1万円で購入できる商品の量）が落ちる、つまり通貨の価値が減価する（通貨安になる）ためであるが、一般に、短期的には金利格差要因の方が為替に与える影響力が大きいといわれていることから、円安方向が予想されることになる。もちろん実際の為替レートはこうした経済のファンダメンタルズ（基礎的条件）だけでは決定されないが、金融環境面からは円安の影響力が強いと考えられよう。

「米国自動車市場の見通し」

JAPIA 北米事務所 河島 哲則

トランプ大統領の「米国に雇用を取り戻す」という公約の標的にされた自動車産業ですが、ここにきて国内販売が減速し始めていて、ピックアップ・トラックやスポーツ用多目的車(SUV)などが好調な反面、乗用車の不調が著しく全体ではマイナスという状態が続いています。ガソリンが安いので小型乗用車で我慢する必要もなく、見た目も乗り心地も使い勝手も良いクロスオーバー車が乗用車より人気を集めるのも当然なのでしょうが、合計すると新車販売台数が去年より少ないというのはやはり市場のピークが昨年夏あたりで過ぎたということでしょう。最近まで減少傾向が顕著でなかったのは販促奨励金、いわゆるインセンティブという麻薬を各社が使い続けてきたからです。

さらにリーマンショックと呼ばれた景気後退から自動車販売がV字回復を示したとき、リース販売が大きく貢献したのも事実で、そのリース車の契約期間が終わって中古車市場に大量に投入され、不景気のとき在庫不足だった中古車が今では販売店に溢れていてその価格も下がっています。このため新車のリース価格は上昇し、新車販売にはますますブレーキがかかるという構図になっています。最近、バンクオブアメリカ・メリルリンチは上述の理由などで2021年までに米国の自動車販売は年率換算1,300万台程度まで低下するという予想を発表しました。これを受けて自動車関連株は一斉に下落してしまいました。

この他にもカーシェアリングが普及すると自動車の販売台数が減るという、やはりおなじアナリスト

たちのコメントが紙面を賑わし、自動車産業の未来はいかにも暗そうに見えます。

私はこれらの意見に全く賛成しません。

自動車販売は元来およそ6年周期で増減を繰り返しながら人口増つまりドライバーの増加に支えられて長期的に増えてきたものです。これから米国の人口が減少していかないのであれば、必要なクルマの数は変わらないと思っています。上記のアナリストたちは半年前まで2021年の自動車販売台数は1,800万台、いや1,900万台になるかもしれないなどと言っていた人たちです。リース販売されたクルマが中古車市場に帰ってくるという事実は今月わかったことではないのに、販売が減少し始めた今になって数字を変えるというのは予測ではなく言い訳です。

そしてシェアリング・エコノミーとか配車サービスの普及による自動車販売減少というのも間違っていると思います。私はニューヨークなどの大都会で出かけるとUberやLyftなどの配車サービスを利用しますがそれはタクシーの代わりに選んでいるに過ぎませんし、カーシェアリングに参加する人々がクルマを所有しなくなったとしても、シェアされるクルマは人数分長い距離を走るのですから当然寿命が来るのも早く、総合すれば同じ台数のクルマが必要になります。さらに一台のクルマを安全運転しないドライバーがシェアすれば事故の確率も上がりますから、むしろもっとたくさんのクルマが必要になるはずで

<完>

工業会業務レポート

委員会活動

総務部

●業務報告【4/16～6/15】

- 4月27日 正副会長等打合せ会、理事会 平成28年度事業報告、収支決算他 芝パークホテル
- 5月25日 通常総会、臨時理事会 平成28年度事業報告、収支決算、平成29年度事業計画、予算、理事・監事の補充選任他 経団連会館

●行事予定【7/16～9/15】

- 7月21日 正副会長等打合せ会、理事懇談会 政策委員の委嘱、各委員長報告他 ホテルホントレ京都
- 8月4日 政策委員会と自動車総連との懇談会 両団体報告事項、意見交換他 芝パークホテル

業務部

●業務報告【4/16～6/15】

- 4月21日 紛争鉦物自工会・部工会連絡会 平成29年調査への対応について検討を行った。 部品会館
- 4月25日 調達・生産部会 拡大幹事会 型管理に関する部工会会員企業の実態把握及び、経産省取引問題小委員会の審議結果を受けての自主行動計画のフォローアップについて検討を行った。 部品会館
- 4月26日 海外への事業展開に伴う訴訟リスクに関する講演会 海外への事業展開に伴う訴訟リスクに関する講演会を開催した。 テーマ：なぜ企業は競争法違反を防げないのか～直視すべき現実と迫り来るグローバルリスクを見据えて～ 講師：大江橋法律事務所 弁護士 長澤 哲也 様 テーマ：企業にとってのe-Discoveryの重要性～訴訟対応リスクの低減の為に～ 講師：株式会社FRONTEO 代表取締役社長 守本 正宏 様 質疑応答ファシリテーター：(株)FRONTEO 執行役員 大西徳昭 様 テーマ：独占禁止法における課徴金制度の見直しの動向 講師：経済産業省経済産業政策局競争環境整備室 室長補佐 伊東 孝子様 テーマ：日本貿易振興機構（ジェトロ）の海外ビジネス支援サービスのご紹介 講師：日本貿易振興機構 ビジネス展開支援部 総括課長代理 宮崎了一 様 部品会館
- 4月27日 中小企業施策委員会 ・仮想展示会の準備状況について説明を行った。 ・取引適正化の取組み（部工会「自主行動計画」策定と実行）について意見交換を行った。 芝パークホテル
- 5月19日 紛争鉦物連絡会 自工会・JEITA・部工会で、平成29年紛争鉦物調査への対応やJEITA紛争鉦物調査説明会（6月～）への協力体制について検討を行った。 自工会、JEITA
- 5月25日 調達・生産部会 ・経済産業省「型管理研究会」の取りまとめ案（アクションプラン案）の説明と意見交換を行った。 ・自主行動計画のフォロー

アップ調査指針案について検討を行った。 部品会館

- 5月26日 経営調査部会 ・2016年度の自動車部品工業の経営動向（案）の取りまとめについて検討を行った。 ・記者会見の対応について検討を行った。 部品会館
- 5月30日 総務委員会運営幹事会 ・6月9日の総務委員会の運営について検討を行った。 部品会館
- 6月9日 総務委員会 ・平成28年度の自動車部品工業の経営動向及び6月12日記者会見想定問答について審議を行った。 ・自主行動計画に関する今後の対応について報告を行った。 部品会館

●行事予定【7/16～9/15】

- 7月25日 コンプライアンスWG 部品会館
- 8月1日 人財・労務部会 部品会館
- 8月4日 中小企業施策委員会 芝パークホテル
- 8月4日 自動車総連との懇談会 芝パークホテル
- 8月21日 税制部会 部品会館
- 8月24日 経営調査部会 部品会館
- 8月25日 総務委員会運営幹事会 部品会館
- 9月7日 総務委員会 部品会館

国際部

●業務報告【4/16～6/15】

- 5月19日 知的財産権部会 1.関係官庁からの知財関連情報報告 2.知財戦略についての講演 日本電気株式会社 知的財産本部 開発推進部長 友部 実氏 3.その他 くるまプラザ
- 6月12日 FTA・通商部会 1.最近の通商動向 2.本年度事業の進捗等 3.EPA取り組み事例研究 トヨタ紡織株式会社 部品会館

●行事予定【7/16～9/15】

- 8月1日 FTA・通商部会 1.最近の通商動向 2.本年度事業の進捗 3.EPA取り組み事例研究 カルソニックカンセイ株式会社 部品会館
- 8月4日 知的財産権部会 1.関係官庁からの知財関連情報報告 2.知財戦略についての講演 マツダ株式会社 R&D技術管理本部 知的財産部長 白髪 信一氏 3.その他 部品会館
- 9月8日 初級～中級者向け知的財産講座 1.知財権利化 2.海外進出全般 3.契約 4.技術流出防止 5.その他 講師 工業所有権情報・研修館 知的財産プロデューサー 久永 道夫氏 ベルサール六本木コンファレンスセンター

関東支部

●業務報告【4/16～6/15】

- 4月19日 会計監査 自動車部品会館
- 4月21日 第1回企画部会 1. 平成29年度関東支部事業計画について 2. 企画部会の今後の予定について 自

自動車部品会館

- 5月18日 工場見学会 事例講演①「IoTを活用したモノづくり革新～e-F@ctory～」(三菱電機) 事例講演②「NECの考えるIoT時代のものづくりについて」(NEC) 三菱電機(株)名古屋製作所 シーケンサ製造工場の見学 三菱電機(株)名古屋製作所
- 5月25日 第1回運営委員会 1. 平成28年度関東支部事業報告(案)及び収支決算(案)について(3月の運営委員会以降に実施した事業報告及び確定した収支決算について) 2. 関東支部推薦本部理事退任に伴う補充推薦候補者の選任について(報告) 経団連会館
- 5月25日 通常年次会 1. 平成28年度事業報告(案)及び収支決算(案)の承認について 2. 平成29年度事業計画(案)及び収支予算(案)の承認について 3. 関東支部推薦本部理事退任に伴う補充推薦候補者の選任について 議案外:優良従業員表彰 議案外:部工会適正取引の推進と生産性・付加価値向上に向けた自主行動計画のフォローアップについて 経団連会館

●行事予定〔7/16～9/15〕

- 7月26日 産業実地研修 自動車部品産業の認知度向上を目的に、関係団体との連携により工業高校等の専門高校教員を対象とした自動車部品メーカーの見学・意見交換を実施する。市光工業(株)伊勢原製造所
- 8月2日 第2回企画部会 NECプラットフォームズ掛川工場

中部支部

●業務報告〔4/16～6/15〕

- 4月14・17日 支部会計監査 平成28年度支部決算会計監査 東郷製作所・住友理工 各社
- 4月20日 第1回運営委員会 平成28年度事業報告案・決算案承認・平成29年度事業計画案・予算案承認・理事辞任に伴う改選案 ヒルトン名古屋
- 4月20～21日 AIAGコアツール実践2日間セミナー 刈谷市
- 4月27～28日 IATF16949 内部監査員2日間セミナー・ISO9001:2015 内部監査員2日間セミナー 刈谷市
- 5月9日 IATF16949 規格解説セミナー 刈谷市
- 5月10～12日 中小企業大学校瀬戸校研修会「リーダーシップ力養成講座」 中小企業大学校瀬戸校
- 5月11～12日 ISO14001:2015 内部監査員2日間セミナー 刈谷市
- 5月18日 平成29年度通常年次会 平成28年度事業報告・決算承認 平成29年度事業計画・予算承認 理事辞任に伴う改選 名古屋市内
- 5月18～19日 ISO9001:2015 規格解説セミナー・ISO9001:2015

内部監査員2日間セミナー 刈谷市

5月23～25日

中小企業大学校瀬戸校研修会「管理者のためのチームマネジメント」 中小企業大学校瀬戸校

- 6月13日 活動計画検討会(環境部会) 2017年度活動計画の検討と策定 名古屋栄ビル

関西支部

●業務報告〔4/16～6/15〕

- 5月11日 第1回正副支部長会、関西支部 年次会、情報交換会、講演会、懇親会「エネルギー大転換」元トヨタ自動車(株)技監 中村徳彦氏 ホテルグランヴィア京都
- 5月29日 生産分科会 工場見学会 (株)ヨロズ大分
- 6月6日 経営研修会 勉強会「自社のリスクを見える化しよう」損保ジャパン日本興亜(株)ERM事業部部長 原敬徳氏/グループリーダー 横山歩氏 ホテルグランヴィア岡山

●行事予定〔7/16～9/15〕

- 8月9日 第2回正副支部長会、第1回運営委員会、情報交換会 講演会、懇親会 京終屋
- 8月25日 技術分科会 講演会「ドローン」
- 8月30日 生産分科会 工場見学会・改善事例研究会
- 9月15日～9月22日 経営研修会 海外視察 フランクフルト・モーターショー/ハンガリー

技術関係委員会等の開催状況 (4/16～6/15)

1. 総合技術委員会

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
4月20日	ITS部会幹事会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会について 2) 平成28年度の活動について 3) 関連団体との対応について
5月18日	総合技術委員会幹事会	自動車部品会館	1) 自動運転関連新組織の状況報告 2) 経産省の動きについて

2. 基準認証部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
4月19日	基準認証部会	自動車部品会館	1) 基準認証部会活動計画案の検討 2) 各WG参加メンバー確認と活動計画案について 3) JASIC情報
5月16日	基準認証部会 インドWG	自動車部品会館	1) WGの構成、主査選出について 2) 今年度の活動計画について
	基準認証部会 中国WG	自動車部品会館	1) WGの構成、主査選出について 2) 今年度の活動計画について
5月17日	基準認証部会 ASEAN-WG	自動車部品会館	1) WGの構成、主査選出について 2) 今年度の活動計画について
	基準認証部会 中近東WG	自動車部品会館	1) WGの構成、主査選出について 2) 今年度の活動計画について
6月7日	基準認証部会	自動車部品会館	1) 基準認証部会活動計画案 2) 各WG活動計画案 3) JASIC情報

3. IT対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
5月25日	DE促進部会幹事会	自動車部品会館	1) 上位委員会報告 2) 幹事会検討事項の討議 3) 月次進捗報告
	DE促進部会	自動車部品会館	1) 上位委員会報告 2) 幹事会検討事項の討議 3) 月次進捗報告 4) その他（困り事相談、情報交換等） 5) WG活動
5月26日	CATIA/NX合同研究会	株式会社ISID-AO (品川)	1) VDIに関する技術説明 2) 実機デモ・体験、質疑応答
6月13日	IT対応委員会幹事会	自動車部品会館	1) 平成29年度の活動計画について
	EDI部会	自動車部品会館	1) 平成29年度の活動計画について
6月15日	DE促進部会幹事会	自動車部品会館	1) 活動日程確認と前回宿題確認 2) 上位委員会・幹事会、JAMA等の情報共有 3) WG活動に関する問題と展開事項の確認 4) 重要検討項目論議 5) 部会での通達内容確認
	DE促進部会	自動車部品会館	1) 上位委員会報告 2) 幹事会検討事項の討議 3) 月次進捗報告 4) その他（困り事相談、情報交換等） 5) WG活動

4. 環境対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
4月25日	渉外担当幹事会	自動車部品会館	1) BPA打合せ結果報告 2) 中国CATARCフォーラムプレゼン資料検討 3) OEMとの打合せ結果報告
	製品環境部会	自動車部品会館	1) JAMA 製品化学物質管理部会報告 2) 中国CATARC訪問結果報告 3) 各分科会報告
4月26日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) JAMA 製品化学物質管理部会報告 2) 中国CATARC訪問結果報告 3) 各分科会報告
5月10日	省エネ事例・情報展開TF	自動車部品会館	1) H29年度、活動について 2) H28年度分、省エネ事例のWeb掲載について
5月16日	環境保全分科会	自動車部品会館	1) 平成28年度の活動結果について 2) 平成29年度の活動について 3) 説明会の進め方について 4) 廃棄物、水資源の有効利用改善事例収集結果について
5月17日	化学物質規制対応分科会幹事会	自動車部品会館	1) 各国法規制動向 2) 物質精査活動 3) 欧州情報
5月19日	物質調査システム分科会幹事会	自動車部品会館	1) JAMAシート6月改正 2) GADSLアンケート結果 3) JAMAシート10月改正DXC打合せ
5月23日	渉外担当幹事会	自動車部品会館	1) 中国CATARC主催国際フォーラム報告 2) CLEPAイベント報告 3) 情報誌原稿について
	製品環境部会	自動車部品会館	1) 中国CATARC主催国際フォーラム報告 2) 各分科会報告 3) JAMA個別物質分科会報告
5月24日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 中国CATARC主催国際フォーラム報告 2) 各分科会報告 3) 中国VOCフォーラム報告
5月29日	環境保全説明会	自動車部品会館	1) 土壌汚染対策法の改正について 2) タイ・インドネシアの水事情について 3) 環境保全分科会の紹介
6月6日	LCA分科会幹事会	自動車部品会館	1) 分科会推進体制の見直し 2) 各WGの現状報告
6月7日	工場用化学物質分科会 法規制調査G	自動車部品会館	1) 各国法規制定・改訂情報収集 2) 役割分担の決定 3) 調査方法の整合 4) 調査の実施スケジュール
	工場用化学物質分科会 入り口管理G	自動車部品会館	1) グリーン調達ガイドライン英語版の最終確認 2) ラベルとSDSの対応のガイドラインの見直し 3) H29年度活動の進め方
	工場用化学物質分科会	自動車部品会館	1) 生産環境部会資料説明 2) 各G活動報告 3) GLAPS会議（F2F）報告
6月8日	生産環境部会	刈谷市産業振興センター	1) 各分科会の本年度活動状況の報告審議 2) 環境対応委員会への報告内容検討
	環境対応委員会幹事会	刈谷市産業振興センター	1) 各部会・分科会の本年度活動状況の報告審議 2) 総合技術委員会及び理事会への報告内容検討

5. 品目別部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
4月18日	内装材技術部会	自動車部品会館	1) VOC規制動向について 2) 低減活動の紹介
	エアバッグ分科会CE-WG	自動車部品会館	1) NBフォーラム議事録対応(旧CE認可品ラベル対応) 2) 旧CE認可品ラベルに対する各社対応状況についての情報交換
4月21日 ～22日	車輪技術部会	富山	1) ISO対応について 2) JATMA YEAR BOOK (JYB) R章改正について 3) 自技会関係対応について
4月26日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認について 2) 第5回ISO国際会議対応審議について 3) 2017-2018年度標準化調査内容検討について
4月27日	(濾器) ブローバイフィルタ小委員会	自動車部品会館	1) N356及びN365について、内容整合、及びJPコメント集約 2) ISO 17536 #4の投票についての日程確認 3) 小委員会活動の進捗について
4月28日	警音器部会	自動車部品会館	1) UN-R28問題点および誤記の修正案作成 2) 道交法の保安基準改正内容案作成
5月12日	シートベルト分科会R16マ ネキン精度向上TF	名古屋駅前モンブ ランホテル	1) 活動計画案の検討
5月15日	GTB対応会議、ランプ部会	自動車部品会館	1) GRE会議報告 2) JAPIA/自動運転基準検討部会報告 3) 平成29年度ランプ部会の活動計画
5月16日	(濾器) ISO/TC22/SC34/ WG11WEB会議	自動車部品会館	1) N356及びN365について 2) ISO 17536 #4について
5月24日	チャイルドシート分科会	自動車部品会館	1) 本年度活動計画 2) GRSP/JASIC報告、検討課題
5月25日	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) 各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
5月26日	濾器 ブローバイフィルタ小 委員会	自動車部品会館	1) N356及びN365について、内容整合、及びJPコメント集約 2) ISO 17536 #4の投票についての日程確認 3) 小委員会活動の進捗について
5月24日	予防安全装置分科会	自動車部品会館	1) NASVAとの打合せ報告 2) 活動の進め方について
5月29日	PT熱交換器分科会	自動車部品会館	1) 2017年度分科会メンバー紹介 2) 2016年度会費収支報告、2017年度予算案 3) EGRフーラ放熱性試験方法ISO規格化について
5月30日	摩擦材技術部会	自動車部品会館	1) 委員交代、部会メンバー紹介 2) 2017年度活動計画/自技会情報共有 3) ISO会議(5/3の結果報告) 4) EuroBrake2017出張報告
6月1日	安全装置部会幹事会	自動車部品会館	1) 平成28年度部会・委員会決算報告 2) 平成29年度部会・委員会活動計画・予算案 3) 平成29年度部会春季合同会議開催計画 4) 部会・委員会役員 部会派遣委員等について
6月2日	警音器部会	自動車部品会館	1) 「ISO 10844:2014音響-路上走行車及びそのタイヤから発生する騒音 測定のための試験トラックの仕様」の内容の確認
6月7日	PT熱交換器分科会	自動車部品会館 (WEB会議)	1) EGRフーラ関連の部工会意見集約

6月8日	濾器技術部会	自動車部品会館	1) 部会委員の確認について 2) 平成28年度濾器技術部会収支報告について 3) 平成29年度濾器技術部会活動実績・計画案について 4) ISO国際会議対応について 5) JIS定期見直しについて 6) ISO新規作成・更新に伴うJIS作成について 7) JIS D 1611-3原案作成について 8) ISO投票状況について、JASO定期見直しについて 9) 自技会関連について
	燃料部会	自動車部品会館	1) 部会再起動について 2) 平成29年度活動計画および会費について 3) 部会長および副部会長の選出について 4) 部会名の正式名称について
6月9日	安全装置部会PR-WG	自動車部品会館	1) 国土交通省チャイルドシート啓発ビデオの活用について 2) 安全装置部会幹事会の報告
	ランプ部会 GTB対応会議	自動車部品会館	1) 第123回GTB会議(5/22-26@ボローニャ)の結果報告
	ランプ部会	自動車部品会館	1) JLMAとのIEC規格化の協業について 2) 水銀規制対応について

●行事予定〔7/16～9/15〕

月 日	会合名称など	概 要	場 所
7月18日	省エネ事例・情報展開TF(仮)		自動車部品会館
//	警音器部会		自動車部品会館
7月19日	環境保全分科会		自動車部品会館
7月20日	NX研究会		デンソー（刈谷）
//	化学物質規制対応分科会 幹事会		自動車部品会館
7月21日	DE促進部会幹事会		デンソー（刈谷）
//	DE促進部会		デンソー（刈谷）
//	LCA分科会		自動車部品会館
7月24日	車輪技術部会		自動車部品会館
7月26日	製品環境部会 幹事会		自動車部品会館
7月27日	渉外担当幹事会		自動車部品会館
//	製品環境部会		自動車部品会館
7月28日	電線部会		自動車部品会館
8月4日	PT熱交換器分科会		自動車部品会館
8月9日	基準認証部会 幹事会		自動車部品会館
//	基準認証部会		自動車部品会館
8月24日	CATIA研究会		DSKK（大崎）
8月25日	DE促進部会 幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会		自動車部品会館
//	クッション性分科会		岡山大学
8月28日	車輪技術部会		自動車部品会館
8月30日	製品環境部会 幹事会		自動車部品会館
8月31日	渉外担当幹事会		自動車部品会館
//	製品環境部会		自動車部品会館
9月1日	シート部会		自動車部品会館
9月7日	電線部会		自動車部品会館
9月12日	工場用化学物質分科会 入口管理G		自動車部品会館
//	工場用化学物質分科会		自動車部品会館
9月13日	物質調査システム分科会幹事会		自動車部品会館

日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト 4 5 6月

▶▶日刊自動車新聞の主要ニュースから部品業界の動きを追う

※()内の数字は掲載日付

行政・団体

4月.....

■環境省、騒音規制見直しへ (27日)

環境省は、自動車や市販マフラー、タイヤに関する騒音規制の見直しに着手した。

■国交省、自動運転車の損害賠償責任 論点を整理(28日)

国土交通省は、自動運転車の損害賠償責任のあり方に関する論点を有識者会議で整理した。

5月.....

■経産省、事業承継に最大500万円の補助金 (10日)

経済産業省は「事業承継補助金」の公募を始めた。

■ストックホルム条約、難燃剤2種の使用禁止 (11日)

残留する汚染物質を規制するストックホルム条約の締約国はこのほど、スイス・ジュネーブで難燃剤2種の使用禁止を決定。

■経産省、SI育成事業 37件の提案採択 (12日)

経済産業省は、産業用ロボットの導入を中小企業などに指南するシステムインテグレーター(SI)育成事業として37件の企業提案を採択し、同日から追加公募に入る。

■厚労省、労働基準関係法令違反の334社をHPで公開(15日)

厚生労働省は、労働基準関係法令に違反した疑いで最近半年間に書類送検された334社の企業名を一覧にまとめ、同省ホームページ(HP)に掲載。

■サイバー攻撃混乱広がる 制度や組織的対策急務(17日)

世耕弘成経産相は、世界でサイバー攻撃が相次いだことについて「経済産業省としても、引き続き被害状況の情報収集や注意喚起に努めていきたい」と語った。

■改正道路運送車両法が成立 政府、燃費不正に対応罰則を強化 (20日)

燃費不正などへの罰則を強化した改正道路運送車両法が、参院本会議で全会一致で可決、成立した。近く施行される見通しだ。

■環境省、ブレーキ粉塵の実態調査 排出量や成分、メーカー注視 (22日)

環境省は、ブレーキパッドなどが摩耗して出る粉塵の排出量や成分の調査に着手する。

■国内外から19ブランド 自工会、第45回東京モーターショー出展概要を発表 (23日)

日本自動車工業会は「第45回東京モーターショー2017」に国内メーカー全14社と、海外メーカー13社19ブランドが出展すると発表。

■石井国交相、カートの公道走行 早期に車両安全対策(24日)

石井啓一国土交通相は、公道を走れるカート(原付四輪)について、シートベルトの設置や他の車両からの視認性向上策などを検討する方針を明らかにした。

■16年度の下請法違反被疑事件 申告例が増加 (26日)

公正取引委員会によると、2016年度に新規着手した下請法違反被疑事件は6589件で過去最高となった。

■第67回自動車技術会賞、技術開発賞に8件 燃料電池分野の受賞目立つ (27日)

自動車技術会は、「第67回自動車技術会賞」を発表した。

■総務省、「つながるクルマ」官民で情報共有へ領域別に行程表 (29日)

総務省は、自動車の通信やデータ環境を「セーフティ」「エージェント」「フィンテック」などのサービス領域ごとにロードマップ(行程表)としてまとめ、関係省庁と推進策を練る方針だ。

■経産省、「新産業構造ビジョン」まとめ (30日)

経済産業省は、今後の経済産業政策の指針となる「新産業構造ビジョン」をまとめた。

■産業構造審議会小委、JIS見直しで初会合 (31日)

経済産業省は、日本工業規格(JIS)の見直しに向けた委員会の初会合を省内で開いた。

6月.....

■政府、官民ITS構想行程表を決定 自動運転3分野の実現時期明示 (1日)

政府は「官民ITS(高度道路交通システム)構想・ロードマップ2017」をこのほど決定した。

■政府、乗用車の次期燃費基準 年内にも議論開始 (5日)

政府は、乗用車の次期燃費規制の検討に着手する。

■公取委、公正な競争を最優先 企業のビッグデータ利用(8日)

公正取引委員会は、企業が集めたビッグデータの利用などについて、独占禁止法上の見解をまとめた。



NOK
www.nok.co.jp

Always, Everywhere

NOK株式会社
〒105-8585 東京都港区芝大門1丁目12番15号

クローズアップ

旭化成、動く技術のショールーム コンセプトカー「アクシー」製作

旭化成が自社製部品を搭載して製作したコンセプトカー「AKXY (アクシー)」には、自動車軽量化につながる新素材や快適性を向上する電子デバイスなど、同社が手がける27種類の自動車向け次世代技術を詰め込んだ。車両製作では京都大学発の電気自動車 (EV) ベンチャーのGLMが開発したEVプラットフォームを使って実際の走行が可能なコンセプトカーに仕上げた。旭化成では、「動く技術のショールーム」として自動車メーカーやサプライヤーへの提案活動に活用し、自動車向け事業の拡大につなげていく方針だ。(5月20日)



先進的な素材を活用した内装。
自社開発のインフォテインメントシステムも搭載

■国交省、自動運転戦略に指針 高速道合流部で情報提供 (9日)

国土交通省は、自動運転技術に関する新たな取り組み方針を決めた。

■経産省、水素ST規制緩和を再加速 (13日)

経済産業省は、水素ステーション (ST) に関する規制緩和を再加速させる。

■部工会会長、米のTPP離脱とNAFTA再交渉は「部品業界のリスクに」 (13日)

日本自動車部品工業会の志藤昭彦会長は12日、都内で開いた記者会見で、トランプ米政権によるTPP (環太平洋経済連携協定) 離脱とNAFTA (北米自由貿易協定) の再交渉が2017年の自動車部品業界のリスクになるとの見方を示した。

■経産相・国交相、タカタ民事再生法申請準備でコメント (17日)

タカタが民事再生法適用申請の準備に入ったとの報道に関し、世耕弘成経産相は、「報道は見たが、これはタカタが発表したものではなく、決定したものでもない」と承知している。

■下請けGメンの訪問調査、一部に改善効果 (20日)

「このところ、一律数%の原価低減要請が来っていない」「今春から手形払いが現金化された」—政府が開いた「下請等中小企業の取引条件改善に関する関係府省等連絡会議」に、経済産業省が「下請けGメン」による訪問調査結果を示した。

■EPA交渉、難航する自動車分野 (21日)

日本と欧州連合 (EU) が進める経済連携協定 (EPA) 交渉が大詰めを迎えている。

■自動運転の国際安全基準づくり、議論は「手離し前提」へ (23日)

自動車の基準を議論する国連の自動車基準調和世界フォーラム (WP29) は、今秋にも有人でのレベル3 (条件付き運転自動化) 以上をにらんだ安全基準づくりを始める。

国内

4月.....

■DNP、瞬時に光透過率制御 液晶調光フィルム開発 (26日)

大日本印刷 (DNP) は、液晶技術の研究開発を手がける米アルファマイクロン (AMI) と協業して新しい液晶調光フィルムを共同開発した。

■ダイキョーニシカワ、軽量素材 自動車への適用検証 (27日)

ダイキョーニシカワは、軽量素材「セルロースナノファイバー (CNF)」の自動車分野への適用手法などを検証する環境省主導のプロジェクト「NCV (ナノ・セルロース・ビークル) プロジェクト」に参画した。

■イータス、20年に売上高倍増 セキュリティー対策の需要開拓 (28日)

開発ツール大手の独イータスの日本法人イータス (横山崇幸社長、横浜市西区) は、2020年に売上高を16年実績と比べて2倍に増やす。

5月.....

■デンソーが協業強化 イビデンや東芝と (1日)

デンソーは、東芝とファクトリーIoT、高度運転支援 (ADAS)・自動運転などの分野で協業を強化する。

■ニッタ、浪華ゴム工業買収 (2日)

ニッタは、医療用ゴム製品が主力の浪華ゴム工業 (奈良県大和高田市) を買収する。

■メーカー各社、実用燃費重視に転換 カタログ値のかい離改善 (10日)

実用燃費を重視した新型車開発が活発化している。

■ジェイテクト、富士機工を完全子会社化 シート事業はタチエスへ移管 (11日)

ジェイテクトとタチエスは、富士機工のシート事業をタチエスに移管するとともに、ジェイテクトが実施する富士機工を完全子会社化するための株式公開買い付け (TOB) にタチエスが応募することで合意した。

■タカタ、再建計画が難航 外部専門委などと協議も インフレーター調査も未だ終了せず (12日)

エアバッグの大規模リコール問題を抱えるタカタの再建計画が難航している。

■トヨタ系部品メーカー各社 今期も高水準の設備投資、

先進技術開発 後れ取れぬ (12日)

トヨタ自動車系部品メーカー各社は、今期(2018年3月期)、高水準な設備投資を計画する。

■東プレと丸順と提携 生産、購買、人材など (15日)

東プレと丸順は、資本業務提携を締結すると発表。

■豊田合成、東大発ベンチャーと次世代高分子デバイスの材料で独占契約 (19日)

豊田合成は、東京大学発のベンチャー企業と次世代高分子デバイス「e-Rubber」の主材料の使用・販売に関する独占ライセンス契約を締結した。

■スバル、専門部署を新設 調達部品の品質管理徹底、サプライヤーと一体で (22日)

スバルは、調達部品の品質管理を徹底する。

■ダイセル・エボニック、CFRP部品 コスト最大60%削減 (22日)

独エボニックとダイセルの合弁会社のダイセル・エボニック(アンドレ・ノッペ社長、東京都新宿区)は、エボニックが炭素繊維複合材(CFRP)製の自動車部品のコストを最大60%削減する生産手法を開発したと発表した。

■リコーとデンソー、ADAS向けに世界最小のステレオカメラ開発 (23日)

リコーインダストリアルソリューションズ(横浜市港北区)はデンソーと共同で先進運転支援システム(ADAS)向けの世界最小のステレオカメラを開発した。

■SMK、ガラス両面にセンサー成膜 静電容量方式タッチパネル開発 (24日)

SMKは、1枚ガラスの両面にセンサーを成膜した静電容量方式タッチパネル「キャップデュオタッチ」を開発した。

■「人とくるまのテクノロジー展2017」自動運転や環境技術で競演、電動化技術に熱視線 (25日)

24日に開幕した「人とくるまのテクノロジー展2017横浜」には、自動運転や車の電動化などを実現する最新技術や製品が多数展示され、クルマの技術のトレンドが示された。

■三菱自とソフトバンク、車載AIとロボット連携 (25日)

三菱自動車は、ソフトバンクと共同開発した人工知能(AI)を活用した対話型のドライバー支援システム「RISA(リサ)」を「人とくるまのテクノロジー展2017横浜」で初公開。

■デンソー、世界初の複合センサー開発 トヨタのディーゼル車に採用 (26日)

デンソーは、NOx(窒素酸化物)センサーとA/F(エアー/フューエルレシオ=空燃比)センサーを一体化した「NOx-A/F複合センサー」を世界で初めて製品化した。

■JOLED、RGB印刷方式で世界初 4K有機ELパネルを開発 (27日)

JOLED(東京都千代田区)は、RGB印刷方式では世界初となる21.6インチで4K(829万画素)の高精細画面を持つ有機ELパネルを開発した。

■部品各社トップの声、カギは異業種連携 (29日)

電動化や自動運転、IoT(モノのインターネット)、人工知能(AI)―技術の急速な進化や新技術の登場によって大変革を迫られている自動車産業。

■富士通研究所、レアメタルフリーの正極材開発 (30日)

富士通研究所は、リチウムイオン二次電池の正極材に、希土金属類(レアメタル)であるコバルトを使用しなくても高

い電圧が得られる鉄系素材を開発した。

■ボッシュ、ソニーセミコンと技術提携 車載カメラ開発へ(31日)

独ロバート・ボッシュは、ソニーセミコンダクタソリューションズ(神奈川県厚木市)と自動運転車向けのカメラで技術提携を結ぶことで合意した。

6月.....

■大同工業、エンジン部品開発でスギムラ精工と提携 (5日)

大同工業は、スギムラ精工と資本業務提携する。

■トヨタ、テスラ全株売却 提携関係を解消 (6日)

トヨタ自動車が、保有する米テスラの株式全てを2016年末までに売却していたことがこのほど、明らかになった。

■ROKI、樹脂製オイルパンを実用化 レクサスのATに採用 (6日)

パワートレイン用樹脂部品メーカーのROKI(島田貴也社長)は、金属製と比べ約30%軽量の自動変速機(AT)用の樹脂製オイルパンを開発、トヨタ自動車の上級クーペ「レクサスLC」に搭載した新型10速ATに採用された。

■日清紡ブレーキ、IoT活用しライン効率化 若手登用し人材育成も (7日)

日清紡ブレーキ(東京都中央区)は、生産効率化に向けて工場の生産ラインの見直しに着手する。

■旭硝子、三次元曲面形状の車載ディスプレイ用カバーガラス 世界初の量産 (8日)

旭硝子は、世界で初めて三次元曲面形状の車載ディスプレイ用カバーガラスの量産を京浜工場(横浜市鶴見区)で開始したと発表。

■ホンダ、次世代技術戦略を発表 (9日)

ホンダは、次世代技術に関する戦略を発表した。

■トヨタ自動車、サムス活用してGIと4年間の共同研究(16日)

トヨタ自動車は、モータースポーツの安全研究を統括するグローバル・インスティテュート(GI)とバーチャル人体モデル「THUMS」(サムス)を用いた4年間の研究プロジェクトを開始した。

■ホンダ八郷社長、「しっかりした製品供給を優先」 タカタ民事再生法 (17日)

ホンダの八郷隆弘社長は、タカタが民事再生法を申請するとの一部報道について、都内で記者団に対し、「詳しい内容を聞いていないのでコメントは差し控える」としながら、「我々の製品をしっかり供給できることを最優先に考えて第三者委員会にも意見を言っている」。

■天然繊維浮かぶ内装材 小島プレス子会社、発想の転換で開発 (20日)

小島プレス工業の子会社の内浜化成は、樹脂に混ぜ込んだ天然繊維を目立たせた内装材を開発した。

■ホンダにサイバー攻撃、狭山工場生産停止も挽回にめど(22日)

ホンダは、国内外の生産工場などで同時サイバー攻撃を受け、狭山完成車工場(埼玉県狭山市)が19日に生産を停止したことを明らかにした。

■タカタ、株主総会前の26日再生法申請へ準備 (23日)

タカタが26日にも民事再生法の適用を東京地裁に申請する方向で最終調整に入ったことが22日、分かった。

■ZFがコンセプトカー公開、自動運転システムやADAS搭載 (24日)

独ゼット・エフ(ZF)は、自動運転システムや、さらに進

化した先進運転支援システム（ADAS）を搭載したコンセプトカー「ビジョン・ゼロ・ビークル」を公開した。

海外

4月.....

5月.....

■三菱電機、カナダ競争法違反 罰金支払い命令（1日）

三菱電機は、オルタネーターと点火コイルの取引に関し、カナダ競争法に違反したとして、同国オンタリオ州の裁判所から1340万カナダドル（約11億円）の罰金支払いを命じられた。

■ZF、自動運転車向けの技術開発でフォルクスワーゲンと提携（9日）

独ゼット・エフ（ZF）は、仏の大手部品メーカーのフォルクスワーゲンと自動運転車向けの技術開発で戦略的パートナーシップを締結した。

■小糸製作所、米のランプ関連製品訴訟で和解（29日）

小糸製作所は、自動車用ランプなどの取引で価格カルテルを結んでいたことで不利益を被ったとして米国のディーラー、消費者から損害賠償を求められていた集団訴訟で、3025万ドル（約34億円）を支払うことで和解したと発表。

6月.....

■ブリヂストン、タイヤ特許侵害の中国2社に勝訴（2日）

ブリヂストンは、中国タイヤメーカーの広州市華南橡膠輪胎、広州豊力橡膠輪胎が特許に侵害しているとして上海知識産権法院に訴えていた件でブリヂストンが勝訴した。

■ブリヂストン、仏タイヤ小売りチェーンを買収（8日）

ブリヂストンは、仏大手タイヤ小売チェーンのエイメグループの買収を完了した。

■東海理化、米子会社が古河電工子会社提訴（16日）

東海理化は、同社米子子会社2社が、古河電気工業の米子会社に対して訴訟を提起した。

■GLM、耐衝撃性ガラスの200倍 樹脂製フロントウインドー（20日）

電気自動車（EV）ベンチャーのGLMは、公道用車両では世界初となる樹脂製フロントウインドーの実用化にめどをつけたと発表。

市場

4月.....

■世界生産7社が新記録 16年度、北米・中国中心に拡大（28日）

乗用車メーカー8社は、2016年度の生産・輸出台数を発表。

■世界販売5社が最高 16年度（28日）

乗用車メーカー6社が27日に発表した2016年度の世界販売実績で、トヨタ自動車、日産自動車、スズキ、マツダ、スバルの5社が過去最高を更新。

■17年3月期トヨタ系中堅部品各社 中央発條20期ぶり最高益、東海理化は赤字転落（28日）

トヨタ自動車系の中堅部品メーカー各社は、2017年3月期連結業績を発表。

5月.....

■国内生産3年ぶり増 16年度936万台 登録・輸出が好調（1日）

自工会は、2016年度の国内生産・輸出実績を発表した。国内生産は前年度比1.9%増の936万278台と3期ぶりに増加。

■16年度民生用電子機器国内出荷額、カーAVC機器9.5%増

電子情報技術産業協会（JEITA）がまとめた2016年度（16年4月～17年3月）の民生用電子機器の国内出荷額は前年度比4.1%増の1兆3296億円と6年ぶりにプラスとなった。

6月.....

■ホンダ系18年3月期、増収増益見通し3社 開発投資は増額姿勢（8日）

上場しているホンダ系部品メーカーが発表した今期（2018年3月期）の業績見通しによると増収増益を見込むのは、13社中3社にとどまった。

■日産系部品メーカー18年3月期見通し、3社が減収減益見込む（14日）

日産自動車を主要納入先とする上場サプライヤー6社（日産車体のぞく）の今期（2018年3月期）の通期業績見通しは3社が減収減益を見込む。

記者の目

次世代車に求められるものとは

自動運転や電動化、コネクテッドカーなど、次世代技術の進展に伴い、自動車の価値が大きく変わりつつある。自動車・部品メーカーが提携して完全自動運転車の開発に乗り出す動きも目立つ。自動運転でドライバーが運転に関与する時間が少なくなれば、車の乗り味とは異なる新たな価値が求められる。

今年1月に米国・ラスベガスで開催されたCESで、トヨタ自動車は人工知能（AI）を搭載したコンセプトカーを発表した。人と車の新たな関係の構築をテーマに、インパネなどに仮想の対話相手「エージェント」を映し出すなど、従来とは全く異なる車内空間を打ち出した。AIを活用して対話からユーザーの好みを把握し、新たな運転体験につなげる狙いだ。

部品メーカーも次世代車の付加価値を見出そうと模索している。自動車技術の展示会で、ある中部圏のサプライヤーはスマートフォンの非接触充電や自動シートリクライニング機能などを搭載したコンセプトカーを展示した。来場者にアンケートをとり「賛否の声を聞きながら事業化を考える」という。細かなニーズを汲み取った上での提案力が今後の競争力の鍵となると見ている。

次世代車では、ユーザーが触れたり、体感できる部品への需要が高くなるだろう。米テスラが採用した大画面のタッチスクリーンもその一つ。将来技術を巡り異業種参入などで開発が激化する中でも、新価値創造に向け、消費者目線で考えることが重要となる。（H）



このダイジェストは4月26日～6月25日まで日刊自動車新聞に掲載した主要な部品関連の記事を抜粋。詳しくは日刊自動車新聞電子版・<http://www.netdenjd.com/>（有料・月額3,500円）で読めます。

指標・統計

■自動車の生産・販売・輸出（自工会調）

1. 四輪車の生産実績

（単位：台）

	2017. 2月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 3月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	734,560	99.1	1,393,867	94.2	806,967	100.2	2,200,834	96.3
普 通 車	422,395	103.6	809,984	99.5	473,565	111.8	1,283,549	103.7
小 型 四 輪 車	163,932	100.1	313,077	96.9	177,618	96.9	490,695	96.9
軽 四 輪 車	148,233	87.2	270,806	79.2	155,784	78.4	426,590	78.9
ト ラ ッ ク	106,030	96.3	199,022	90.3	112,344	91.2	311,366	90.6
バ ス	10,354	86.1	19,303	78.5	10,652	95.2	29,955	83.7
合 計	850,944	98.6	1,612,192	93.5	929,963	99.0	2,542,155	95.4

2. 四輪車の国内販売実績

（単位：台）

	2017. 2月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 3月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	413,316	84.3	756,740	81.9	583,771	87.7	1,340,511	84.3
普 通 車	143,839	89.7	263,606	88.9	209,634	98.8	473,240	93.1
小 型 四 輪 車	130,021	93.1	239,354	89.4	188,414	91.9	427,768	90.5
軽 四 輪 車	139,456	73.2	253,780	70.5	185,723	74.6	439,503	72.2
ト ラ ッ ク	69,999	95.1	127,281	93.9	104,789	91.2	232,070	92.7
バ ス	1,410	131.0	2,354	142.1	2,814	114.1	5,168	125.3
合 計	484,725	85.8	886,375	83.5	691,374	88.3	1,577,749	85.5

3. 四輪車の輸出実績

（単位：台）

	2017. 2月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 3月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	334,610	106.5	620,766	103.5	370,964	112.1	991,730	106.5
普 通 車	310,934	105.8	581,849	104.5	346,436	111.5	928,285	107.0
小 型 四 輪 車	23,549	117.4	38,434	89.2	24,352	124.1	62,786	100.2
軽 四 輪 車	127	123.3	483	168.3	176	26.5	659	69.2
ト ラ ッ ク	31,152	78.0	54,321	77.6	38,611	88.4	92,932	81.8
バ ス	9,894	78.1	16,694	70.9	9,971	87.9	26,665	76.4
合 計	375,656	102.4	691,781	99.8	419,546	108.7	1,111,327	103.0

■自動車部品の生産・輸出・輸入

1. 自動車部品の生産（経済産業省「生産動態統計」）

（単位：百万円）

		2017. 2月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 3月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
総括	自動車部品 41品目	570,006	112.4	1,094,789	108.9	625,898	108.7	1,720,687	108.8
	関連自動車部品 9品目	120,777	117.0	227,045	111.0	128,073	106.2	355,118	109.2
	内燃機関電装品 5品目	32,634	98.8	62,525	98.5	35,620	103.6	98,145	100.3
	二輪車部品 4品目	6,112	102.1	11,797	103.4	6,881	118.0	18,678	108.4
	合 計	729,529	112.3	1,396,156	108.7	796,472	108.2	2,192,628	108.5

指標・統計

			2017. 2月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2017. 3月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
自動車部品 (41品目)	1	ピストン	3,506	109.0	6,727	107.4	3,890	107.0	10,617	107.3
	2	ピストンリング	3,826	110.0	7,385	111.8	4,047	107.3	11,432	110.1
	3	シリンダーライナ	1,671	98.2	3,305	99.8	1,865	103.3	5,170	101.0
	4	吸気弁・排気弁	3,777	111.2	7,208	108.4	4,145	107.3	11,353	108.0
	5	ガスケット	2,329	97.9	4,617	99.0	2,422	94.8	7,039	97.5
	6	燃料ポンプ	1,624	108.0	3,114	107.0	1,790	101.4	4,904	104.9
	7	気化器・燃料噴射装置	21,648	99.5	42,738	98.7	22,299	99.1	65,037	98.9
	8	空気清浄器	2,012	97.6	3,836	96.0	2,405	108.6	6,241	100.5
	9	油清浄器	1,808	103.3	3,542	102.8	1,859	96.7	5,401	100.6
	10	油ポンプ	2,652	108.9	5,054	105.4	2,917	109.2	7,971	106.8
	11	水ポンプ	2,153	103.5	4,084	101.9	2,363	104.3	6,447	102.8
	12	放熱器（ラジエータ）	14,601	105.2	28,159	99.6	16,152	101.3	44,311	100.2
	13	クラッチ装置	5,363	83.9	10,240	84.5	6,665	114.0	16,905	94.1
	14	自動変速装置	196,427	116.5	377,303	112.8	220,174	119.6	597,477	115.2
	15	ユニバーサルジョイント	3,424	116.6	6,604	112.3	3,710	116.1	10,314	113.7
	16	プロペラシャフト	4,701	106.7	9,037	103.1	5,471	106.4	14,508	104.3
	17	車輪	8,503	109.6	16,034	105.1	9,199	101.5	25,233	103.8
	18	かじ取りハンドル	3,644	127.7	7,130	125.5	3,888	114.9	11,018	121.5
	19	ステアリング装置・タイロッド・タイロッドエンド	38,128	109.7	73,455	107.7	41,307	107.7	114,762	107.7
	20	ショックアブソーバ	10,386	88.4	20,244	87.5	10,896	84.9	31,140	86.6
	21	ブレーキ倍力装置	2,328	105.6	4,494	103.1	2,583	100.5	7,077	102.1
	22	ブレーキシリンダ	4,573	125.8	8,686	122.0	5,063	122.4	13,749	122.1
	23	ブレーキパイプ	2,882	103.4	5,410	102.2	3,217	108.4	8,627	104.5
	24	ブレーキシュー	2,604	91.0	5,002	91.3	2,917	93.4	7,919	92.1
	25	電子式ブレーキ制御装置	21,085	148.1	41,292	148.5	23,685	149.7	64,977	149.0
	26	燃料タンク(LPG用を除く)	7,784	114.7	14,157	103.8	7,791	93.0	21,948	99.7
	27	排気管・消音器	29,783	103.9	56,713	100.3	33,123	98.7	89,836	99.7
	28	窓わく	2,887	124.4	5,412	113.3	3,350	115.0	8,762	114.0
	29	ドアヒンジ・ドアハンドル・ロック	6,981	110.2	13,536	107.0	7,655	91.3	21,191	100.7
	30	窓ガラス開閉装置	4,567	115.2	8,697	109.0	5,098	110.0	13,795	109.4
	31	シート	78,550	1177.1	149,852	202.1	83,907	100.1	233,759	147.9
	32	シートベルト	7,657	11.4	14,975	20.0	7,888	97.8	22,863	27.6
	33	エアバックモジュール	8,339	114.2	16,471	111.9	8,789	112.3	25,260	112.0
	34	スイッチ類	15,790	124.5	30,285	121.0	17,204	114.7	47,489	118.6
	35	計器類	11,177	101.9	20,742	96.9	11,856	86.3	32,598	92.8
	36	ワイパー	7,528	109.0	14,375	109.2	8,416	103.2	22,791	106.9
	37	警音器	1,665	114.5	3,181	112.0	1,881	115.5	5,062	113.3
	38	暖房装置	6,111	110.3	11,545	101.1	6,530	89.7	18,075	96.7
	39	軸受メタル	3,765	92.5	7,398	93.9	4,509	99.2	11,907	95.9
	40	ブッシュ	2,747	98.5	5,306	99.4	3,116	109.4	8,422	102.9
	41	オイルシール	9,020	104.0	17,444	103.1	9,856	105.7	27,300	104.0
			合　　計	570,006	112.4	1,094,789	108.9	625,898	108.7	1,720,687
関連自動車部品 (9品目)	1	かさね板ばね	2,011	95.9	3,931	96.0	2,217	97.6	6,148	96.6
	2	つるまきばね	1,715	103.6	3,414	103.3	2,056	105.8	5,470	104.3
	3	線ばね(自動車用)	5,156	105.9	9,817	106.1	5,479	107.3	15,296	106.5
	4	エアコンディショナ(乗用車用)	25,884	109.2	51,038	105.7	26,860	91.5	77,898	100.3
	5	白熱電球(自動車用)	826	107.8	1,596	107.5	864	109.0	2,460	108.0
	6	電気照明器具(自動車用)	43,626	122.0	84,058	117.9	48,065	114.5	132,123	116.7
	7	カーオーディオ	4,074	77.6	7,909	79.3	3,359	59.3	11,268	72.1
	8	カーナビゲーションシステム	28,804	98.8	56,601	99.5	29,721	88.7	86,322	95.5
	9	鉛蓄電池(自動車用)	8,681	93.4	16,676	95.6	9,452	100.3	26,128	97.3
			合　　計	120,777	117.0	227,045	111.0	128,073	106.2	355,118

		2017. 2月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 3月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
内燃機関電装品 (5品目)	1 充電発電機 (ダイナモ)	7,004	95.2	13,311	93.5	7,256	98.3	20,567	95.1
	2 始動電動機 (スタータ)	7,141	92.5	13,522	90.0	8,023	94.6	21,545	91.7
	3 配電器 (ディストリビュータ)	413	86.4	767	84.4	433	81.1	1,200	83.2
	4 点火線輪 (イグニッションコイル)	7,472	104.6	13,759	101.0	8,185	101.2	21,944	101.1
	5 点火栓 (プラグ)	10,604	102.7	21,166	107.5	11,723	118.4	32,889	111.2
	合 計	32,634	98.8	62,525	98.5	35,620	103.6	98,145	100.3
二輪自動車部品 (4品目)	1 気化器	951	110.1	1,789	109.7	781	100.8	2,570	106.8
	2 ショックアブソーバ	2,309	108.4	4,512	109.9	2,587	123.1	7,099	114.4
	3 計器類	895	88.4	1,711	91.4	1,028	96.6	2,739	93.3
	4 ブレーキ装置	1,957	98.9	3,785	99.7	2,485	131.6	6,270	110.3
	合 計	6,112	102.1	11,797	103.4	6,881	118.0	18,678	108.4

(注)

①平成26年1月分より／経済産業省「生産動態統計」の見直しにより、「エアバッグモジュール」の定義が変更されました。

そのため、発生年月以前の数値と発生年月以降の数値をそのまま比較出来ません。

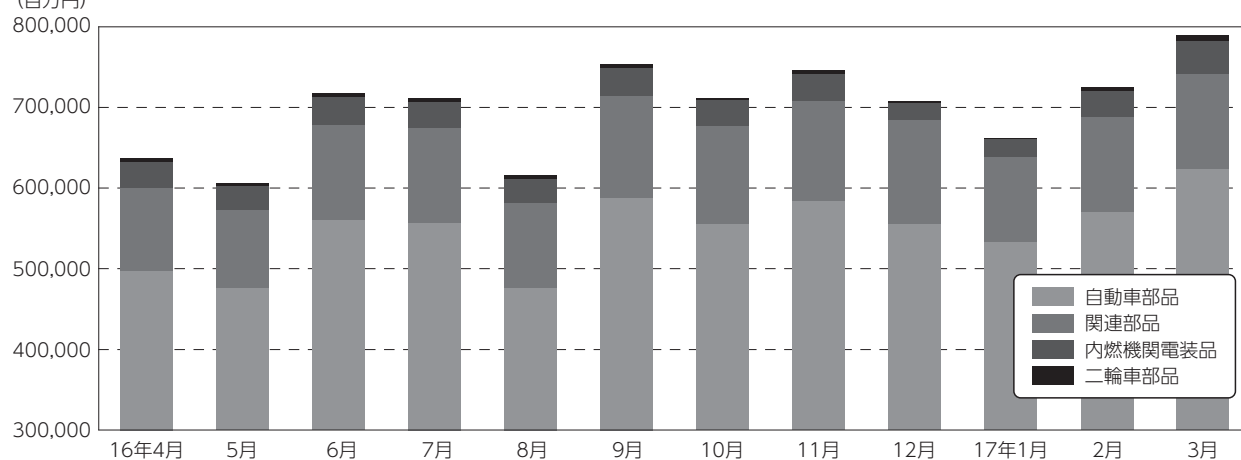
接続係数を前年の数値に掛けて、当月の数値と接続して前年比を算出しています。

②平成26年1月分より／経済産業省「生産動態統計」の見直しにより、「オイルシール」の生産額の掲載が廃止になったため、「オイルシール」のみ販売額を計上しています。

③平成29年1月分より／品目の掲載順序・表記名を一部変更しました。

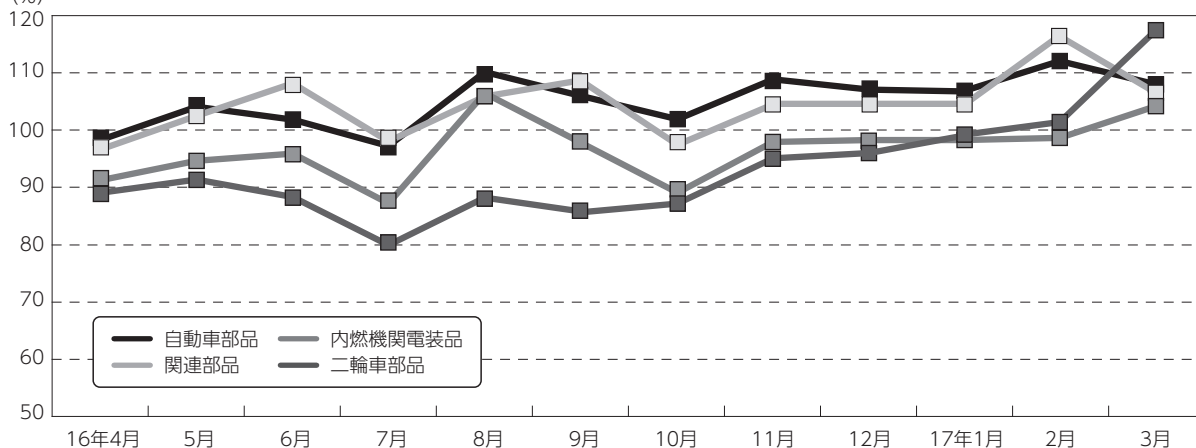
■最近12ヶ月の自動車部品の生産推移

(百万円)



■自動車部品生産の対前年同月比の状況

(%)



The Art of Driving

どこまでも走りたくなる
心地よいシフトフィール



アイシン・エイ・ダブリュ



黄海経済自由区域 | 中国向けの輸出入前進基地。先端・成長産業の国際的な協力拠点

投資の長所

1. 先端産業クラスターの形成

- ▶ 自動車(現代起亜), 半導体(サムスン電子), ディスプレイ(LG), 鉄鋼(現代製鉄)クラスター
- ▶ 玄谷、魚淵、閑山など、近隣8つの外国人専用賃貸団地の分譲率 100%

2. 周辺における大規模開発

- ▶ 世界最大級の半導体工場
(① サムスン電子 古徳産業団地, 2016. 9.)
- ▶ 機械・電子など、有望新産業のハブ
(② LG振威産業団地, 2017. 12.)
- ▶ 親水型グローバル観光リゾート
(③ 平沢湖 観光団地, 2021.)
- ▶ 東北アジアにおける最大規模の平沢米軍基地
(④ K-6, 2016.)

3. 巨大な国内外の背後市場

- ▶ 韓国人口60%の約3千万人が居住
- ▶ 1時間30分の飛行距離内に百万人以上の国際的都市が50所在

4. 便利な交通インフラ

- ▶ 仁川国際空港・清州国際空港から1時間
- ▶ 平沢 芝制駅 → ソウル (SRT, 20分)

5. 豊富な優秀人材の宝庫

- ▶ 韓国における研究開発人材の51%, 半導体従事者の60%
- ▶ 首都圏に位置する117大学(全国の34%)

6. 中韓FTAの最大受益地域

- ▶ 中国の沿岸産業ベルトから最短距離に位置(寧城から396km, 烟台から505km)
- ▶ 自動車による物資流動量において韓国トップである平沢港は、東北アジアの海上物流ハブに成長すると期待されている(2016年、63船席 → 2030年、92船席)



黄海経済自由区域庁
YELLOW SEA FREE ECONOMIC ZONE AUTHORITY

ウェブサイト | <http://yesfez.gg.go.kr>

投資相談 | +82-31-8008-8593 / 8632



その居心地の良い空間は、
トヨタ紡織のある空間です。



QUALITY OF TIME AND SPACE

すべてのモビリティに“上質な移動空間”を

モビリティに乗る時間を、ただ移動するためだけではなく、
もっと意味のある、価値あるものにしたい。

私たちトヨタ紡織は、
「世界中のお客様に最高のモビリティライフを提案し続ける会社」
として、世の中をリードする移動空間の
システムサプライヤーを目指しています。

 **トヨタ紡織**

「企業は人」 材育成 環境が変化しても 長し続ける 人材を育てる

人材育成制度

040 社

目標設定研修

098 回

評価者能力研修

567 回

昇格者選抜評価

160 回

人事・人材開発支援の

主な実績企業

アイシン・エーアイ株式会社
アイシン・エンジニアリング株式会社
アイシン化工株式会社
アイシン機工株式会社
アイシン軽金属株式会社
アイシン・コムクルーズ株式会社
株式会社アイシン・コラボ
アイシン精機株式会社
アイシン辰栄株式会社
アイシン高丘株式会社
NTN 株式会社
株式会社キャタラー
埼玉工業株式会社
株式会社ソミック石川
津田工業株式会社
株式会社デンソーエアシステムズ
株式会社デンソーセールス
デンソーテクノ株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社豊田自動織機
浜名湖電装株式会社
浜名部品工業株式会社
豊生プレーキ工業株式会社
マブチモーター株式会社 他 (50 音順)

株式会社シナジーパワー

愛知県名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル 8F
TEL 052-204-4780 FAX 052-204-4700 〒460-0002
E-MAIL info@synergy-power.co.jp

どこでも 見られる 使える 電子版!

日刊自動車新聞 新 電子版

パソコンやスマホでニュースをチェック! 新聞紙面の記事はもちろん、ウェブならではの速報対応で、業界動向をリアルタイムでお伝えします。電子版でしか読めないコンテンツが満載。気軽に使える情報ツールとしてお役立てください。

これでビジネスの幅が
広がります!



外出先でも
利用可能



外出時や出張先、
海外でもご利用OK!

外出先や海外でも、ちょっとした
空き時間を利用して気になる記事
をチェックできます。



過去の記事もすぐに見せる
バックナンバー検索

全文検索機能でキーワードからの
記事検索もラクラク。期間を指定
しての検索もできます。



速報
機能



無料のお試し購読はこちらから

<http://www.netdenjd.com/>

購読の申し込み・お問い合わせ

日刊自動車新聞社

販売推進部

〒105-0012 東京都港区芝大門1-10-11 芝大門センタービル3階 TEL: 03-5777-2318 FAX: 03-5777-2319

E-mail: hanbai@njd.jp



DENSO

Crafting the Core

より良い未来を次世代へ

Crafting
the Core